

車体 NEWS

WINTER 2013 冬

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



グリーン経営で実現できます!

グリーン経営とは…

「環境に配慮した会社経営」で、企業の社会的責任として環境面にも積極的に取り組む会社経営です。国土交通省をはじめ各業界団体の協力を得て、エコモ財団が推進しています。

★環境にやさしい取り組みをしている
運輸事業者を是非ご利用下さい!

運輸部門のグリーン経営認証とは…

トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、内航海運、旅客船の事業ごとに「環境にやさしい取り組みをしている運輸事業者」を認証する制度がグリーン経営認証です。

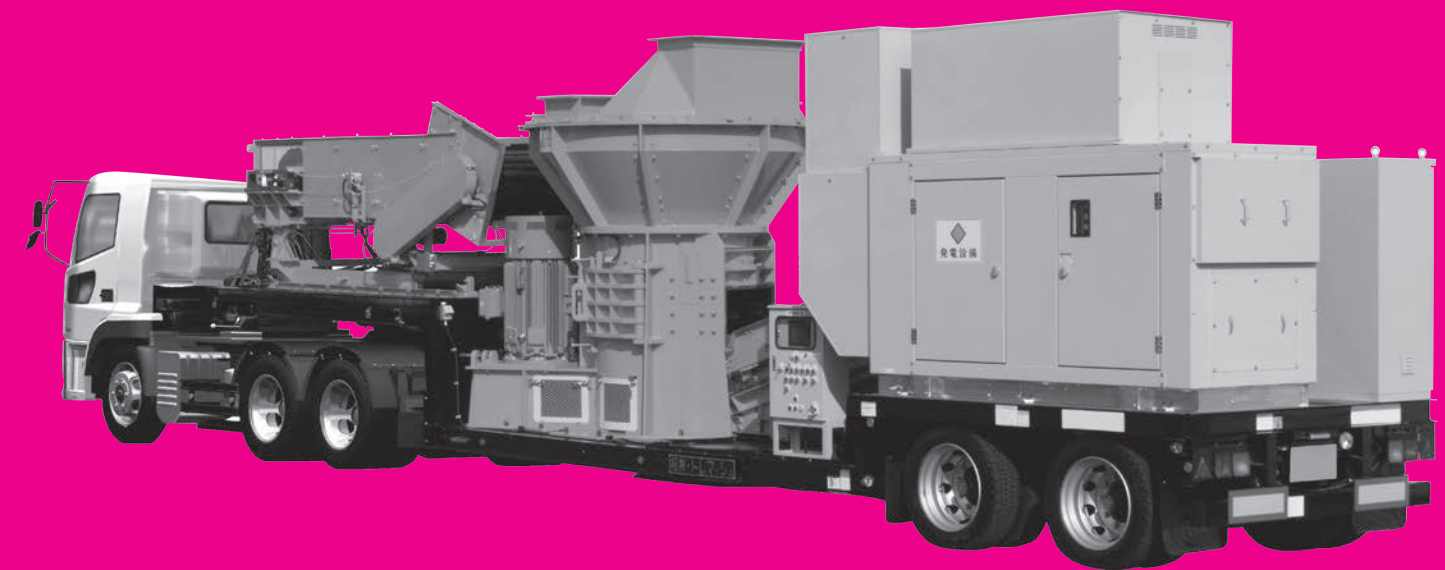
エコドライブや自動車の点検整備、エネルギー効率の向上、廃車・廃棄物の発生抑制、適正処理、リサイクルの推進などの具体的な環境活動が評価され約7,400事業所が認証を取得しています。

「認証基準」、「取組事例」、「講習会開催予定」など詳細は **グリーン経営** で **検索**

*グリーン経営認証専用ホームページ <http://www.green-m.jp/>

環境にやさしい

輸配送をしていますか?



CONTENTS

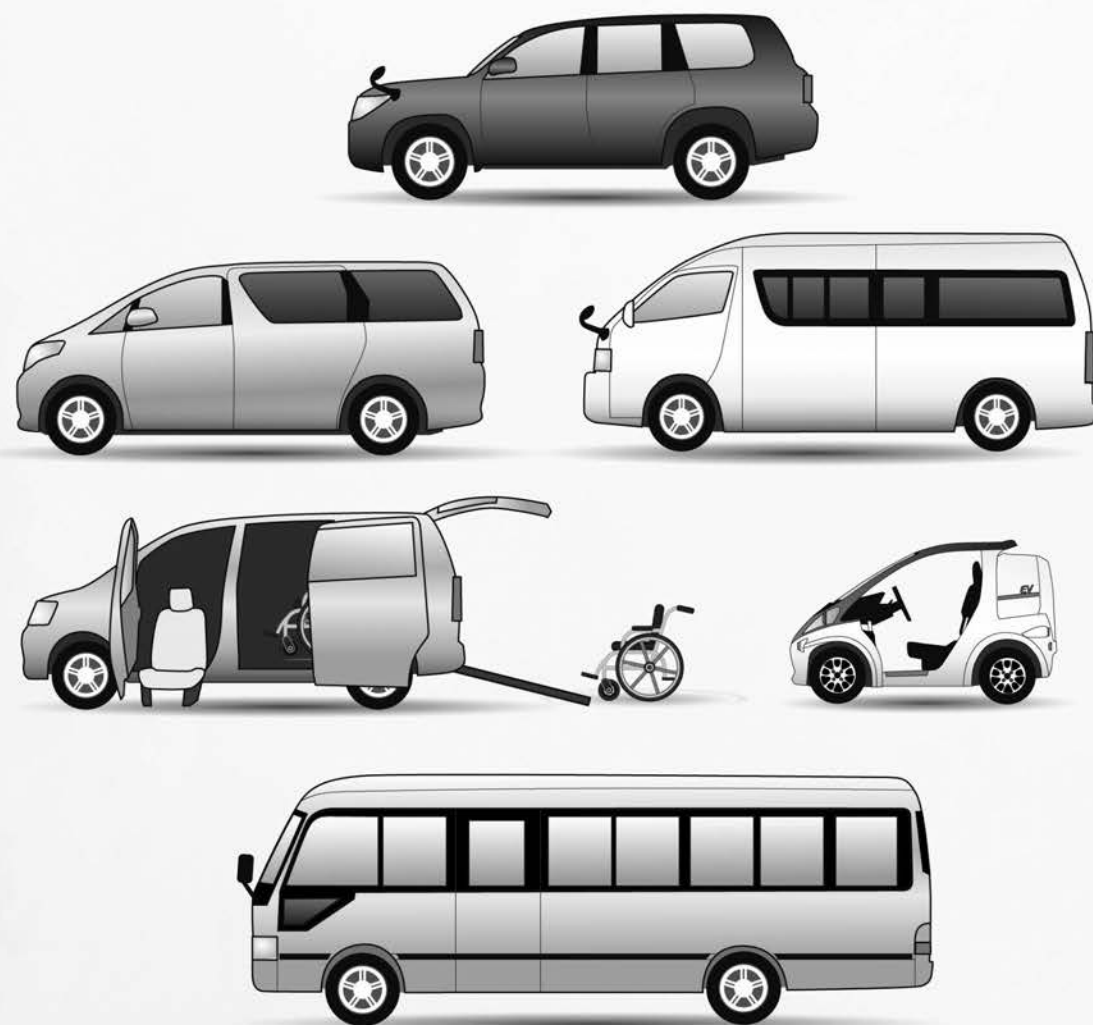
巻頭言	2
NEWS 特集	
秋季会員大会を開催	3
講演会 トラック・バス国内需要動向と今後の見通し	
三菱ふそうトラック・バス(株)	5
講演会 高齢者雇用ガイドライン説明会	7
突入防止装置の基準改正に係る	
国際会議への出席報告について	8
第43回東京モーターショー2013に出展	9
NEWS FLASH	
本部だより	11
部会だより	14
支部だより	17
官公庁だより	19
月度活動状況	23
会員情報	26

Net Work	
vol.73 西南自動車工業(株)	27
VOICE	
マルワ工業(株)	29
共和レザー(株)	30
そこが知りたい	
新東名が開通してどう変わった?	31
働くクルマたち	
第3回タンクトレーラ	33
Coffee Break	35
我が社の元気人	37
DATA FLASH	
2013年4月～9月 会員生産状況概要	38
編集後記	41

ミニバン、商用車、SUVの 完成車両メーカーをめざして。

トヨタ車体はミニバン、商用車、SUVの企画・開発から生産までを手がけ、時代をリードし、クルマのある豊かな生活の実現に努めています。

これまでも、これからも、地球環境への対応はもちろん、豊かなクルマの未来、人の未来へ私たちは挑戦を続けています。



トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

トヨタ車体株式会社
〒448-8666 愛知県刈谷市一里山町金山100番地
www.toyota-body.co.jp

巻頭言



特装車業界の 今後の展開

特装部会長 加藤 幹章
新明和工業(株)・取締役副社長執行役員

国内普通トラックの現況

今年度の普通トラックの登録台数は、2012年度の6万8千台を超える水準になると見られています。リーマンショックの後、4万1千台まで減少した2009年に味わったどん底の水準からすると大幅な回復を見せています。2003年の排ガスト需の代替需要をベースに、東日本大震災の復興需要やアベノミクスによる国土強靱化計画の実現化に加え、2020年東京オリンピックの開催が決定するなど、当面は高需要が続く見込みです。しかしながらマクロ的な視点で見れば、少子高齢化が進み国内需要規模は縮小していくと考えられます。過去30年間の普通トラックの登録台数を見ると、1996年以前は10万台を切ることはありませんでしたが、1997年以降はほとんどの年で10万台を下回る水準となっています。代替需要などによる高い需要の後、それらの反動による減少を繰り返しながら推移してきた登録台数ですが、年々減少しているのが実態です。

特装車事業の拡大に向けて

近年急速に進んだ少子高齢化による労働者数の減少から運転手の数が減ったこと、また適正積載の浸透により製品耐用年数の長期化が進んだことなどが需要規模の縮小に影響していると推測できます。

このように高齢化などにより働き手が減るという前提の中で、我々の業界が発展していくには、これまでの延長線上での対応を続けていても明るい未来を迎えることは困難であり、特装車関連事業の拡大を模索していく必要があります。

大きく落ち込んだ需要が急激に回復し、生産対応に忙殺される会社もあるとは思いますが、マクロ的な視点に立ってこうした取り組みにも今から注力していかなければなりません。この好調期にそうした対応をとることが、いずれ迎える反動減に備えることになるからです。会員各社におかれても、当然ながら将来に向

けた経営努力をされていると推察します。製品の高機能化や信頼性向上などにより高付加価値化をさらに進め、また使用用途の多様化を図るなど、ひとつひとつの製品の守備範囲を広げることで市場における事業規模を維持・拡大していくことに、更に注力していかなければならないと考えます。

安全にお使いいただくために

今後、当然ながら製品の複雑化・高機能化などがますます進むことになります。製品が複雑化・高機能化することで、取り扱いも複雑化します。より安全に使用していただくためには、その製品に使用される部品の機能などを確実にチェックし、安全に使用していただける状態を維持することが重要で、定期的なメンテナンスが更に必要となります。

自動車には検査制度がありますが、我々の製品にはそうした制度はありません。事故を未然に防ぐ定期的な保守・メンテナンスの実行はお客様の任意となっているのが現状です。

我々が作る製品にも耐用年数がありますが、お客様の使い方によっては、その年数は長くもなり、短くもなります。安全にご使用いただくためには、自動車と同様、日常及び定期的な点検整備、修理や部品の交換が必要です。今後如何にしてお客様に定期的なメンテナンスを実施していただけるかを課題として、お客様の理解もいただきながら関係各所と検討していきたいと考えます。

最後に

社会のインフラを支える「働くクルマ」はシャシだけでは機能しません。シャシメーカーと当会の会員である架装メーカーが一体となることで始めてその力を発揮するのです。日本の社会基盤を支える製品を製造していることを誇りに持ち、今後も車体業界の発展に向けて取り組んでいきましょう。

秋季会員大会を開催



2013年度秋季会員大会が、第43回モーターショーに合わせて11月22日、ビッグサイトに隣接する東京ベイ有明ワシントンホテル「アイリス」にて開催され、過去最大となる300名強が参加した。

白根会長の挨拶に続いて、渡辺副会長による乾杯で懇親会が始まり、終了後は東京モーターショーを見学した。



白根会長



渡辺副会長

会長あいさつ

本年の通常総会で、皆様のご承認をいただき、車体工業会会長を務めております白根でございます。会員の皆様には、日頃から当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。また本日はご多用中にもかかわらず、このように多くの会員の方々にご出席をいただき、秋季会員大会を開催することができましたことに心より感謝申し上げます。本日は300名強の出席をいただき、これまでで最多となっており、大変うれしく思っています。

さて、本年度4月から9月の当会会員生産台数累計は、117万台、前年比95%となっています。カーメーカーからの委託生産車を除く当会特有車種を見ますと7万4千台、前年比108%となっており、7月からは3か月連続の前年超えと好調です。

それでは、今年度の当会事業計画の進捗状況について少しお話しさせていただきます。

第1項目の「安全対応活動の推進」については、突入防止装置の基準改正に係る国際会議に委員を派遣し、国際自動車工業会や欧州車体工業会との意見交換をはじめ、基準改正に対し当会としての意見を申し上げます。また、巻込み防止装置の推奨基準の設定、JABIA規格化の推進、部会調査研究活動など、計画どおりの進捗です。

第2項目の「環境対応自主取り組みの推進」では、CO₂、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆様のご協力のおかげで目標を達成出来る見込みです。環境負荷物質の使用削減は

NEWS 特集



当日の受付風景

フォローアップの段階となっており、これまで以上に皆様のご理解とご支援が重要であると考えております。

第3項目の「中小企業支援活動の推進」では、官公庁情報の解り易い展開に努めています。また、税制改正や規制改革などの各種要望の提出やその実現に向け関係団体と連携した取組みを推進しております。

最後の「活性化活動の継続推進」では、車体業界の認知度向上を図るため当会からの情報発信の充実に努めるとともに、昨年度策定した「車体業界の将来ビジョン」の具体化に向け、チャレンジ5活動をスタートさせ、推進しているところです。

以上のように、本年度事業計画は、概ね計画どおり進捗していると判断しております。下期は実効を上げる段階であり、上期以上に皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本日は「第43回東京モーターショー2013」の開会日であり、先程、私も開会式に出席してまいりました。今回のモーターショーは、東京ビッグサイトに会場を移して2回目の開催となり、「世界にまだない未来を競え。」をテーマに12月1日まで開催されます。今週火曜日には主に海外メディアを対象としたイベントを開催し、報道関係者招待日の盛り上げを図るなど、いろいろな活性策を展開してきました。このショーが国内需要喚起の更なるきっかけになることを願っております。

我々の車体部門は、東ホール屋内に3社出展し、東ホール屋外には11社15台の「働く くるま」合同展示場を設置しました。先ほど見させていただきましたが「専門性が素晴らしく、使い勝手の良い日本のものづくりの高さ」を、後ほど現場を見ていただきますようお願いします。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とますますのご発展を祈念いたしまして、開会のご挨拶にかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



過去最大となる300名強で会員間の親睦が図られた

三菱ふそうトラック・バス(株)より 講師を招き講演会を開催

トラック・バスの市場動向と今後の見通し

2013年10月17日に自動車会館内くるまプラザにて、藤岡泰生氏(三菱ふそうトラック・バス(株)・三菱ふそうセールスジャパン販売統括部部长)を講師にお招きし、トラック・バスの市場動向と今後の見通しなどについてご講演いただいた。

1. 国内トラック・バス市場動向

■ 2013年は予想に反して需要回復傾向

2012年は補助金及びエコカー減税という強い原動力により、16万台を達成した。2013年はその反動で前年を下回るだろうと予想されたが、アベノミクスと復興需要を原動力に非常に強いトレンドで上がってきているため、前年を超える16万5千台と推測される。

■ 今後の見通し

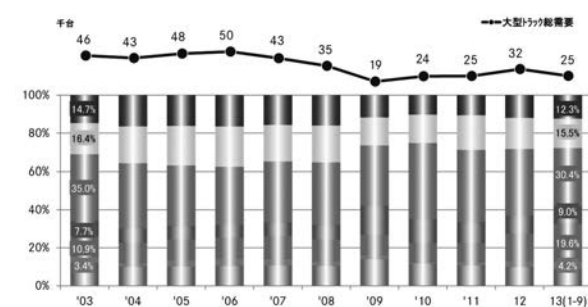
2014年は消費税増税というイベントを控えているが、それ以上に引き続き強い景気動向と復興需要により、2013年を上回ると予想している。

■ 車体業界を取り巻く環境

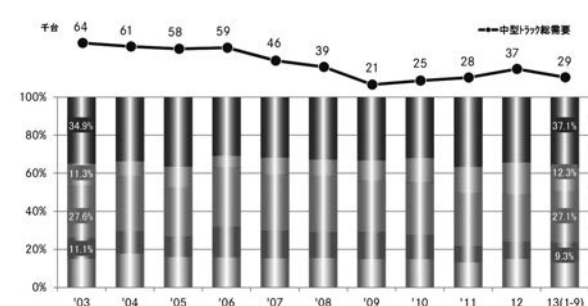
トラック・バスの保有台数は全体的になだらかなカーブで減少傾向である。逆に使用年数は増えている。

自動車貨物輸送量は、震災以降2013年にかけて建設関連貨物輸送量のみ増加しているが、生産関連／消費関連貨物輸送量は横ばいである。

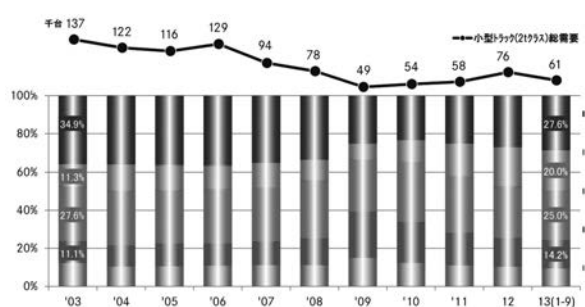
大型トラック総需要推移



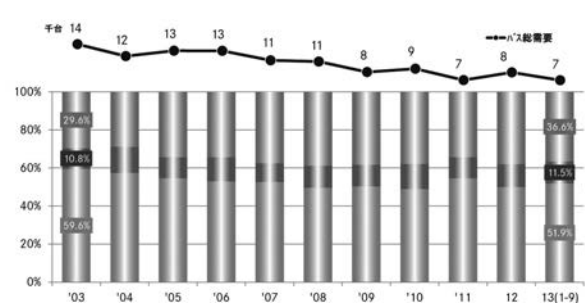
中型トラック総需要推移



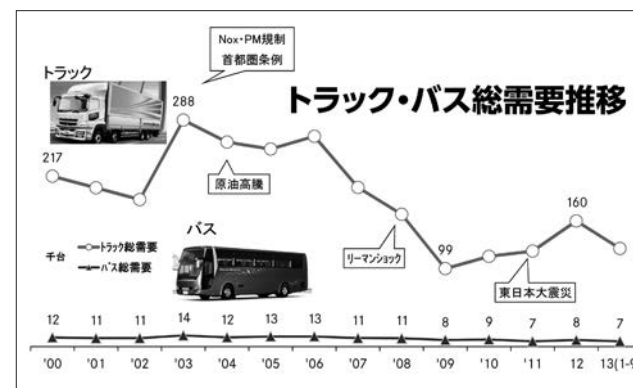
小型トラック総需要推移



バス総需要推移

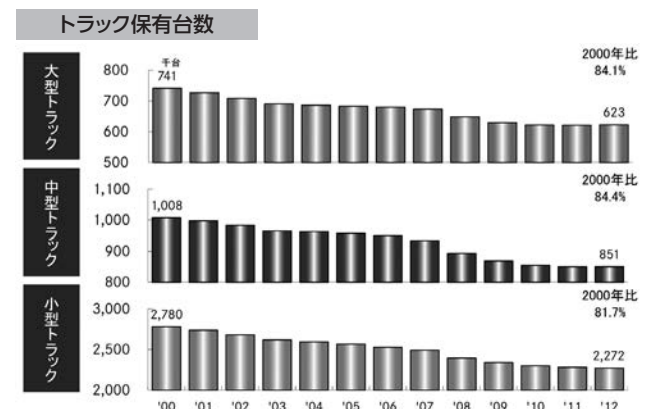


三菱ふそうトラック・バス(株)
三菱ふそうセールスジャパン
販売統括部部长
藤岡 泰生氏



2013年9月までの数字となっているが、計上されていない第4四半期(10～12月)は年間需要のおよそ23%を占めるため、2013年は前年を上回る需要を回復した。

バスに関しては、旅客輸送量、バス保有台数も年々減少傾向にあり、特に路線バスでは輸送人員及び営業収入は引き続き長期的に減少傾向である。分社化などに伴い事業者数は増加しているが、新規参入は限定的である。



2. 今後の法規動向

■ 温暖化対策が急務

地球温暖化への対策が急務となっている。温室効果ガスの中で二酸化炭素の割合が高く、日本は二酸化炭素を世界で5番目に多く排出しているため、日本のCO₂削減効果は温暖化対策への貢献度が高い。また運輸部門は日本の総排出量の19.5%を占め、その中で貨物自動車は34.2%(日本全体の6.7%)を占めている。2015年の燃費基準をはじめとして、2017年から排出ガスの法規制を迎える。

項目		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
環境	排出ガス					17/09 ホストJP09 (GVW>7.5ton) 18/09 ホストJP09 (トラクタ) 19/09 ホストJP09 (GVW≦7.5ton)		
	燃費基準				15/04 重量車燃費基準 (GVW>3.5ton)			
	LDWS 車線逸脱警報装置				17/09 (GVW>3.5ton)			
安全	AMB 衝突被害軽減ブレーキ					17/09 (GVW>22ton) 18/09 (トラクタ) 19/09 (22ton≦GVW>20ton)		
	ESP 車両挙動安定装置					18/11 (重量車から開始)		
	その他	13/07 フロントフォグランプ						

3. 架装事業への取り組み

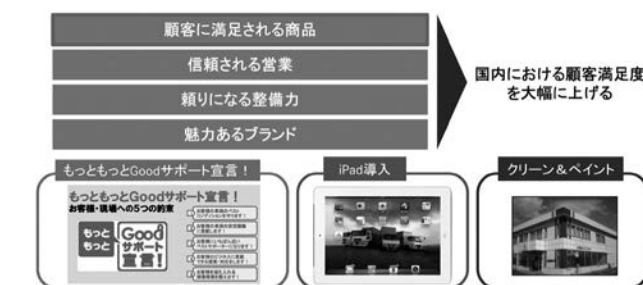
■ 「FUSO2015」

三菱ふそうは中期経営ビジョンである以下の「FUSO2015」を2011年に策定して取り組んでいる。

- ・ 業界をリードするグリーン・イノベーション(環境貢献企業)
- ・ 顧客満足度向上(お客様第一)
- ・ 海外事業の収益性改善
- ・ 低コスト体質とさらなる成長
- ・ 業界で最も働きがいがあり、誇りが持てる会社

■ 顧客に満足される商品を目指して

2012年に架装メーカー約100社を対象とした外部機関による満足度アンケートを実施したところ、技術的要素(架装性)、営業的要素とともに架装メーカーから厳しい評価をいただき、改めて当社の問題点が浮き彫りとなった。これを受け、社内に架装改善タスクフォースチームを設置し、組織の見直しも含め様々な改善に取り組んでいる。



■ 取り組み事例

民需架装を中心に、過去の架装事例を共有することで、新規商談を円滑に取り進め、成約までのプロセスの簡素化を狙う。また架装時に改造が必要となった際に、架装別に過去の検討済みの事例を集約してコード化しており、また将来的にはデータベース化を架装メーカーと共有することも検討している。

■ 架装情報提供のお願い

様々な架装を考慮した汎用シャシとするため、架装に関する情報をいただきたく、引き続き、協力をお願いいたします。また品質向上に向けて架装要領書に沿った確実な架装をお願いいたします。

今後もシャシメーカーとして、車体メーカーと情報を共有・交換することで業界の発展へ貢献していきたい。

高齢者雇用推進事業ガイドライン説明会を開催 ～高齢者雇用が企業を強くする～

NEWS 特集

車体工業会・高齢者雇用推進委員会(座長・藤村博之氏・法政大学専門職大学院イノベーションマネジメント研究科教授)は、10月17日にくるまプラザにおいて、「高齢者雇用推進事業ガイドライン説明会」を開催した。



藤村博之氏
法政大学専門職大学院
イノベーションマネジメント
研究科教授

1. 高齢者雇用推進事業の背景

■ 長寿化と少子化の同時進行

不老長寿と健康寿命ともに世界一の日本は、高齢者雇用対策において、世界の注目を集めている。高齢者の活用は世界の手本となり、今後のビジネスチャンスになりうる。

2. ガイドラインの考え方

■ 高齢者の活躍が企業発展のカギ

高齢者の技術、知識や経験を生かし、会社全体の活性化(戦力化)にどう結びつけるかを課題としている。

3. ガイドラインの骨子

(1) 改正法とは？

法改正→65歳まで必ず全員雇用なのか？

【ポイント1】 希望者全員を65歳まで雇用する義務<例外>

- ・就業規則に定める解雇事由又は退職事由(除く年齢)
- ・心身の故障、勤務状況が著しく不良

【ポイント2】 12年間の経過措置がある

- ・対象者を限定する「基準」
- ・報酬比例部分の支給開始年齢

(2) 若手採用への影響について

高齢者雇用→若手の採用を抑えざるを得ないか？

高齢者と若年層はスキル・役割が異なるため、相互補完的に活用することが重要である。

【例：高齢者向けの生産ラインが海外で活躍】

高齢者向けに開発されたシンプルで負担の少ない生産ラインを海外の工場に導入したところ、現地の人を採用しやすくなった。→多様な人材を活用する土台づくりになる。

(3) 戦力化とモチベーションの向上を図るために

- ① 多様な雇用形態
各人に適した勤務パターンや雇用形態を作り上げる。
- ② 役割に見合った賃金設定
仕事内容や役割ごとに賃金額を設定する。
事例) 賃金を時給換算し、時間単位で管理することでフレキシブルな管理を可能にした。
- ③モチベーションの維持
 - ・面談等で会社の期待を明確に伝える。
 - ・賃金・処遇に納得を得るよう対話に努める。
 - ・定年時に区切りのイベントを実施する。
 - ・配属先や評価方法を工夫する。



ガイドラインの解説をする
(独) 高齢・障害・求職者雇用
支援機構 桑原幸治理事

(4) 工夫と配慮が大切

- ① 後任の指導をお願いする際は、事前に人に教える方法を身につけてもらう場や機会の設定を工夫
 - ・指導・教育する仕事への配置
 - ・今までの知識と経験を生かした業務や指導
 - ・人に教えるテクニックとノウハウの活用
- ② 勤務形態への配慮
 - ・勤務時間の短縮
 - ・負荷の少ない仕事への従事

(5) 事前の対策を行う

定年後の働き方について、なるべく早い段階で考えさせる機会を与える。例えば50歳頃には定年を見越したキャリア展望の重要性に気づくようにする。

(6) 公的助成金の活用

- ① 高齢者活用促進コース
対象：高齢者の活用の促進のための雇用環境整備の措置を実施した事業主
【支給金額】上限500万円
- ② 高齢者労働移動支援コース
対象：定年を控えた高齢者で、他の企業での雇用を希望する者を、民間の職業紹介事業者の紹介により、雇い入れている事業主
【支給金額】支給対象者1人につき70万円(短時間労働者の場合は1人につき40万円)

突入防止装置の基準改正に係る 国際会議への出席報告について

NEWS 特集

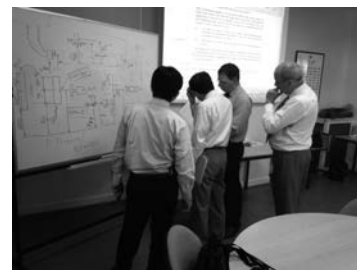
中央技術委員会突入防止装置技術委員会(委員長・原田修・極東開発工業(株)営業技術部長)では、9月24日～25日、フランスのパリの国際自動車工業会(OICA)本部で開催された会議(GESG)に、突入防止装置改訂案への対応方針についての当会の考え方を伝えるため委員を派遣した。

1. 経緯・目的

突入防止装置の国際基準であるUN-R58については、アウトバーンでの追突事故がドイツ国内で社会問題化していることを背景に、2011年に同国からその改正提案が国連の自動車基準調和世界フォーラム(WP29)に提出され、WP29の専門分科会の一つ「GRSG」で審議が継続されている。

当会としては、本改正提案が今後の突入防止装置の製作と取付け等に重大な影響を及ぼすことになるため、突入防止装置技術委員会が中心となり対応策を検討してきた。

今般、GRSGのメンバーであるOICAが当会と近い考えであることが判明し、日本自動車工業会(以下自工会)の配慮によりOICAが主催する会議に当会が出席する機会を得た。そこで、委員を派遣し改正提案に対する対応方針等について共同で検討することとした。



本会議前の事前打合せ。ドイツ自工会のフェイファー氏とOICA議長のマッケンジー氏にホワイトボードを使い当会の考えを説明(手前が当会の岡本委員、その先が通訳をしていた自工会の棚橋氏)



本会議でR58改正提案の対応方針を検討するOICAメンバーと当会の委員(正面右が議長のマッケンジー氏、同中央が事務局のフォンテーヌ氏、同左がドイツ自工会のフェイファー氏。日本の自工会と当会は議長席に向かって右に配置)

2. 派遣メンバー

- ・原田 修
(突入防止装置技術委員会委員長・極東開発工業(株))
- ・岡本 斉
(同委員会委員、JASIC一般安全分科会委員・新明和工業(株))
- ・清水 正之
(車体工業会事務局)

3. 会議の場所と日程

- ・場所：パリ/フランス
- ・日程：2013年9月24日～25日(2日間)

4. 会議結果

突入防止装置の対象は、費用対効果の観点から事故が頻発している中・大型のトレーラに限定し、他の自動車は現状通りの扱いとするOICA案をWP29に提出することで合意した。

【参考】

GRSGは10月8日～11日まで開催され、本改正提案の審議が行われたが、産業界や各国政府からの反対意見が多かったため合意には至らず、次のGRSG(2014年5月開催)で再審議することとなった。

文中の略称の説明

UN	国際連合(United Nations)
R58	ECE規則の項目番号。2013年8月現在で131個の項目があり、R58は突入防止装置の技術基準。
WP29	自動車基準調和世界フォーラム(World Forum for Harmonization of Vehicle Regulations)の通称。自動車基準の国際調和、相互認証を推進する。年3回開催(3月、6月、11月)
GRSG	WP29傘下の6つある専門分科会の一つ(Group Safety General)。突入防止装置を含む安全一般に関する規定を司る。年2回開催(4月、10月)
JASIC	自動車基準認証国際化研究センター(Japan Automobile Standards Internationalization Center)。国が行う自動車基準・認証制度等の国際化推進活動を支援する。
OICA	国際自工会(Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles)
GESG	OICA内で安全一般関係の規定を司る専門分科会。(Group of Experts on Safety General Provisions)



第43回東京モーターショー2013に出展 「働くくるま」が大集合! ～伝統のものづくりを車体にのせて～

NEWS 特集



日本自動車車体工業会は11月22日～12月1日、東京ビッグサイトで開催された「第43回東京モーターショー2013」に出展した。

「『働くくるま』が大集合! ～伝統のものづくりを車体にのせて～」をテーマに、車体工業会合同展示として架装メーカー各社が東ホール屋外展示場に出展した。

大型モニターを使用して2人のレポーターが元気に展示車両を紹介、環境に優しく安全性を向上させた、車両運搬車や塵芥車、バン・トレーラ等をPR。レポーターによる展示車両の紹介の他、大型モニターでは初の試みとして当会及び会員会社の紹介VTRを上映した。さらに会員紹介では社名に加え主要製品の写真をパネル展示した。当会の主な活動として環境問題への取り組みを紹介する等、車体工業会及び「働くくるま」のPRを行った。

また、単独出展として3社が東1ホール屋内にて、人や環境・地球にやさしいコンセプトカーや特別仕様車の展示を行った。

<開催概要>

日 時：2013年11月22日(金)～12月1日(日)

会 場：東京ビッグサイト 東ホール屋外展示場及び東1ホール

合同出展：SGモータース(株)、極東開発工業(株)、新明和工業(株)、
(屋外) 須河車体(株)、(株)タダノ、東邦車輛(株)、日通商事(株)、
日本トレックス(株)、日本フルハーフ(株)、(株)浜名ワークス、
(株)矢野特殊自動車

単独出展：トヨタ自動車東日本(株)、トヨタ車体(株)、日産車体(株)
(屋内)



来場者で賑わう展示会場



当会の活動をパネル展示で紹介



大型モニターを使ったレポート



大型モニターを使用したデモンストレーション



屋外展示会場風景



トヨタ自動車東日本(株)のブース



トヨタ車体(株)のブース



日産車体(株)のブース

■自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に関する要望

当会も構成会員である自動車税制改革フォーラムでは、JAF(日本自動車連盟)、自動車総連と共に以下の「自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に関する要望」をまとめ、自民党/政府に対して要望した。

要望理由

- 自動車には取得・保有・走行の各段階で合計9種類・8兆円もの税金が課せられており、特に取得・保有段階における自動車固有の税負担は、欧米諸国の約2.8～47倍になっている。
- 自動車は、「ぜいたく品」ではなく「生活必需品」であり、都市部、地方を問わず日常の移動手段として欠かせない存在であるにも拘らず、他の物品に比べて過重な税が課せられ、また、世帯で複数保有が常態化している地方においては、極めて過重な負担となっており、税の公平性という観点からも、早急な見直しが必要である。
- 今般の消費税増税に伴う閣議決定及び与党税制改正大綱においても、自動車取得税・自動車重量税については「経済情勢に配慮する観点から」「地方財政にも配慮しつつ、簡素化、負担の軽減、グリーン化を図る観点から」見直しを行うこととされている。
- 消費税増税に伴う自動車への追加的な税負担が国民生活へ与える影響は極めて大きいことから、地方財政に配慮しつつ、燃料への課税も含めて以下の対策を講じるよう要望する。

要望事項

【車体課税】

- 消費税8%時点において
 - 自動車取得税の3%引き下げ
 - エコカー減税(取得税・重量税)の拡充
 - 自動車税・グリーン化特例(グリーン税制)の拡充
- 消費税10%時点において
 - 自動車取得税の確実な廃止
 - 簡素化、負担の軽減、グリーン化の観点から自動車重量税など保有課税の廃止・抜本的見直し
- 自動車取得税廃止代替財源としての、自動車税・軽自動車税(二輪車含む)などの自動車関係諸税の増税反対

【燃料課税】

- ガソリン税、軽油引取税に上乗せされた「当分の間税率」(旧暫定税率)の廃止
- ガソリン税のTax on Taxの解消



■第17回労政合同勉強会を開催

人事労務研究会では、9月6日、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で、「女性の活躍促進」をテーマとした第17回労政合同勉強会を開催し、37社47名が出席した。

はじめにサントリーホールディングス(株)人事本部ダイバーシティ推進部課長の弥富洋子氏による「サントリーグループ ダイバーシティ推進への取り組み」紹介があった。「ダイバーシティ経営」として年齢、性別、国境、ハンディキャップの4つを重点課題として「超える」取り組みを実施しているとのこと。

続いてジャスコ(株)富士事業所のFRAT製造課リーダー永田真由美氏から「生産変動への柔軟な対応として年齢、性別に関係なく作業の出来る「人に優しいラインづくり」が必要」とのことへの対応事例報告があった。



事例紹介をする弥富洋子氏

■高齢者雇用推進セミナーを開催

高齢者雇用推進委員会では、11月8日に東北支部(山形県天童市)、11月11日に四国支部・九州支部合同(福岡市)で「高齢者雇用推進セミナー」を実施した。

委員会のシンクタンクである日鉄住金総研(株)の主席研究主幹の山藤康夫氏が講師となり、東北支部のセミナーでは12社17名が出席。四国支部・九州支部合同のセミナーでは23社28名が出席した。

事例発表の後、参加者より各社の「女性の活躍を推進するための取組について」意見交換を行った。

高齢者雇用安定法が2013年より改正され、65歳までの雇用義務化について「経過措置」を含めた正しい認識をもち、当会高齢者雇用推進委員会にて作成した高齢者雇用のQ&A(ガイドライン)「とっておくべく3つのこと(従業員用パンフレット)」の活用、さらに企業の経営に高齢者の継続雇



四国支部・九州支部合同セミナーで高齢者継続雇用のメリットを説明する山藤康夫氏

■労政合同分科会及び工場見学会を開催

人事労務研究会では、11月28日に日本自動車部品工業会と合同で労政合同分科会を開催、当会会員企業である(株)ソーシン入間工場(埼玉県入間市)を見学した。

(株)ソーシンは空港用大型化学消防車等の大型車両の製造から様々なトラックやバスの部品を開発・製造しており、特にトレーラのカプラでは国内販売の約75%のシェアを誇っている。

1999年4月に各和精機(株)、国産機器(株)、千代田自動車工業(株)の3社が合併して(株)ソーシンが設立され、日野自動車(株)が100%の出資をしている。『ソーシン』の名前は「創造」と「進歩」から名付けられ、また従業員は1,231名でその7割が正社員である。最近の取り組みとして「高齢者雇用」と「VM(ヴィジュアルマネジメント)活動」についての説明があり、「高齢者雇用」では定年再雇用制度により希望者の全員を65歳まで採用しており、更に、「特命OB」制度として特殊技能のある社員は70歳まで雇用延長する場合もあるとのこと。「VM活動」では無駄を削減するために全社一丸となって「見える化」の活動を進捗中で、不用品の基準を作成し、3か月で廃棄を実施して、スペース確保につなげた。

その後の工場見学では、空港用大型化学消防車及び部品製造工程について説明を受けた。

工場見学の後、場を移し分科会を開催し、「労働諸条件要求交渉(年末、賞与交渉、カレンダー交渉等)」について情報交換を実施した。



部会だより

NEWS+FLASH

特装部会

■特装車定期点検推進ポスター及びメンテナンスニュースの発行

特装部会サービス委員会(委員長・佐藤孝雄・極東開発工業(株)サービス本部副本部長)では、次の内容の定期点検推進ポスター及びメンテナンスニュースNo.33を作成し、9月より全国のサービス工場等で掲示・配布等による啓発活動を実施している。また、東京モーターショー特別版メンテナンスニュースを作成し、東京モーターショーの車工会展示会場で配布等による啓発活動を実施した。



定期点検推進ポスター



メンテナンスニュースNo.33



東京モーターショー特別版メンテナンスニュース

■工場見学会の実施

特装部会(部会長・加藤幹章・新明和工業(株)副社長)では、11月14日、新明和工業(株)佐野工場(栃木県佐野市)の見学会を実施した。(部会員18社、30名が参加)

同社の特装車部門は全国に3か所(佐野、寒川、広島)の生産工場を所有しているが、佐野工場はその中で最も規模の大きな工場、製造される車もダンプ車、ミキサー車、タンクローリ、粉粒体運搬車、脱着車、塵芥車、高所作業車など多機種に渡り、先進の設備・技術と環境保全に配慮した同社の主力工場である。

見学会では、最初にDVDによる同社全体の概要説明と工場長から同工場の詳しい説明があった後、成型工場、組立工場等を見学することができた。見学の後の質疑応答では、品質管理、構内事故防止、表彰制度等の取組み状況などについて、活発な意見・情報交換ができるなど、大変有意義な見学会となった。



特種部会

■2013年度第2回見学会を実施

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所社長)では、9月20日、部会役員見学会として特種部会員13社24名が参加し、トヨタ自動車東日本(株)本社・宮城大衡工場(宮城県黒川郡)の工場見学を小型部会と合同で実施した。

今回の見学会では、日本の自動車産業の最新生産ライン見学、環境に優しい周辺地域と一体となった工場等、日頃みることが出来ない様々な工程を見学でき、大変有意義な見学会であった。

すばらしい工場で、「現場の方々のアイデアを取り込んだ“からくり改善”の結果」を活用して成果を上げているこ



(P.17小型部会工場見学会記事参照)

とは、特種部会会員のような中小企業にも取り組める活動であり、「参考にしたい」と考える会員が多かった。

トラック部会

■工場見学会並びに第2回部会会議を開催

トラック部会(部会長・田村元・(株)浜名ワークス社長)では、10月29日に19社23名が出席し、工場見学会並びに第2回部会会議を実施した。

はじめに、(株)北村製作所本社工場(新潟県新潟市)の見学会を実施。冷凍バンポデー製造ラインは、どの工程も自動化率が高く、また、多岐に亘るお客様からの要望に応えられるよう様々な工夫がなされ、高品質で安定した製品を製造するために工場全体が一丸となって取り組まれている様子がよく分かり、多くの刺激を受けた見学会となった。

通信事業や、産業用洗浄システム等、車輦以外への事業展開も積極的に進め、通信事業規模が車輦事業よりも多いとの説明を受け大変驚かされた。

第2回部会会議では、2013年度事業計画の進捗状況についての詳細報告と論議がなされ、次回に向けて、委員会毎に事業計画を推進させていくことが確認された。

今回は、普段なかなか出席のかなわなかった新潟地区の会員も含め多数参加し、活気あふれる意見交換がなされ、大変意義深い見学会並びに部会会議となった。



■(株)オカムラ物流、JFEエンジニアリング(株)見学会を開催

トラック部会(部会長・田村元・(株)浜名ワークス社長)では、11月26日に8社10名が参加し、(株)オカムラ物流横浜物流センター及びJFEエンジニアリング(株)鶴見製作所の見学会を開催した。

(株)オカムラ物流では自動化された出入庫システムを見学、商品やお客様によって組立後配送と客先組立を使い分けしている等の説明を通じ、商品の品質確保にも大変気を使っていることが伺えた。

JFEエンジニアリング(株)では都市環境整備事業の内、自動駐輪システム「サイクルツリー」、「充電システム付立体駐車場」等を見学、長い歴史と幅の広い製品の展開に、大変興味深い見学会となった。



(株)オカムラ物流
横浜物流センター



JFEエンジニアリング(株) 鶴見製作所

バン部会

■第4回技術委員会を開催

バン部会(技術委員会・杉野英樹・(株)矢野特殊自動車技術本部副本部長)では、10月25日に11社12名が出席し、本年度第4回目の技術委員会を開催した。

2013年度事業計画の進捗状況報告と討議がなされ、年度末のまとめに向けて各委員が事業計画を推進することを確認した。また、会議後半に、調査研究項目のLED灯火器架装時の不具合防止推進に向けて、電装メーカーにも出席してもらい研修会を実施した。

(1) 技術委員会

- ・トラック荷台安全対策のJABIA規格化
- ・車検時提出書類の統一化検査法人への要望の部会内調査結果
- ・架装要領記載内容の統一化要望調査結果のまとめ(各部会に確認依頼～12/初)

- ・環境負荷物質フリー宣言の100%達成完了報告

(2) LED灯火器の取扱いについて(研修会:電装メーカー出席)

- ・LED製品の特長、弱点、LED駆動回路等について
- ・不具合事例(10例)に対する推定原因、対処方法について意見交換

トレーラ部会

■工場見学会を実施

トレーラ部会(部会長・西川柳一郎・日本トレクス(株)社長)では、10月25日部会員7社16名が参加し、トヨタ車体(株)吉原工場(愛知県豊田市)の見学会を実施した。同社は4工場を有しており、吉原工場では9月に生産累計500万台を達成したランドクルーザーやコースターの製造を担当している。

工場事務所ロビーには、懐かしいBJ40や最新のLX570が展示されており参加者を迎えてくれた。工場概要の説明の中で、現在生産はフル稼働とのことであり、実際に、プレス工程から完成検査工程まで、各工程で5大任務への取り組みの説明を受けて見学し、文字通り活気に満ち溢れた工場であった。同工場は1962年に創業し約50年の歴史があるにもかかわらず5Sが隅々まで行き届いており、すべての活動の基本であることをあらためて認識し、貴重な体験と



なった。見学後にも人づくり・モノづくりに対する情報交換ができて有意義な見学会であったと好評を得た。

バス部会

■特別支援学校向けスクールバス用シート仕様のJABIA規格制定

技術委員会(委員長・小野沢克彦・ジェイ・バス(株)受注設計部部長)では、「特別支援学校向けスクールバス用シート仕様」の自動車車体規格(JABIA規格)をまとめ、8月31日制定した。

制定の目的は、特別支援学校に通う生徒または児童が使用するシートは、これまでお客様の要望が多様多様になって種類が非常に多くなっているが当該シート及びシートベルトはECE法規が緩和され、従来法規を満足すれば良いことになったため、背裏の突起物をなくして胸ベルトを装着するなど安全性や使いやすさに配慮し、且つ仕様を統一することである。構成は、適用範囲、制定目的と特別支援学校向けシート仕様一覧の構成となっている。



■塗装技術者向け勉強会を開催

塗装デザイン研究会(委員長・鈴木博志・ジェイ・バス(株)生産技術部)では、2013年度事業計画に基づき10月25日に大日本塗料(株)小牧工場(愛知県小牧市)において「塗装技術者向け勉強会」を開催した。

本勉強会は少量多品種の塗装をしている会員に役立つ情報を提供する場として、2009年から実施しており、今年もバス部会以外からの会員も含め、16社26名が参加した。

大日本塗料(株)の方が講師になり、座学では、自動車塗装、塗装下地作業及びボカシ塗装などの基礎について説明していただき、続いてドアパネルを用いたメタリック塗色のボカシ塗装の要領と静電塗装機による色再現性についての実演講習を受けた。参加者の多くが実際に塗装に携わっている担当者であり、更に過去のアンケート結果で要望の多かった「自動車補修塗装・静電塗装」に特化した内容としたこと及び座学だけでなく実演も行ったことで、非常に充実した技術情報を得ることができ、大変有意義な勉強会となった。

小型部会

■学生フォーミュラ視察

技術委員会(委員長・根岸昭二・トヨタ自動車東日本(株)第1ボデー設計部長)では、静岡県小笠山総合運動公園(工

コパ)で行われた自動車技術会主催の学生フォーミュラを9月6日に小型部会として初めて視察した。

当日はエンデュランス(約20kmを走行し、走行性能、耐久性、燃費を競う)を視察したが、学生が造り上げたフォーミュラカーの性能(剛性・ハンドリング・エンジン動力)やドライバーの技能の差により、各大学の特徴ある走りを見ることができた。また完走すれば拍手で迎えられるが、途中でリタイヤすればこの1年間の活動が全て水の泡となり、学生は真剣そのものであった。

今回は、フォーミュラOBの案内ガイドをお願いしたことで一般客では入れない場所まで入れて、説明も実体験に基づいたもので興味深く視察ができた。



■小型部会工場見学会

小型部会(部会長・網岡卓二・トヨタ車体(株)社長)では、9月28日に4社16名が参加し、トヨタ自動車東日本(株)本社・宮城大衡工場(宮城県黒川郡)の工場見学を特種部会と合同で実施した。

宮城大衡工場は小型部会会員会社の中で最新工場としてカローラアクシオ、カローラフィールダー等を生産している。生産工程では最新設備と「からくり改善」の組み合わせによるモノづくりに対する拘りを実感した。当工場は2011年に発生した東日本大震災を経験し地域と連携した防災活動も展開している。工場内に設置された「結ギャラリー」では、トヨタ自動車や立地する工業団地内企業と連携し取り組んでいる「F-グリッド」を核としたスマートコミュニティ事業について、地域と工業団地が一体となった安全で安心なまちづくり活動の紹介を受けた。人材育成については東北を拠点にもつ企業としてコンパクト車づくり世界No.1を目指し、地域と一体となったモノづくりを通じて東北復興に寄与することと、中長期を見据えた人づくりをテーマとして設置した、「トヨタ東日本学園」でのカリキュラムや実習の様子も見学した。さらに、エネルギーの有効利用としてベジドリーム栗原でのパプリカ生産も見学した。

小型部会としては同業であるが、「モノづくりは人づくり」そのものであることへの徹底した取組みとお客様への「おもてなし」の対応は参考となり、有意義な見学会であった。

支部だより NEWS FLASH

北海道支部

■合同部会を開催

北海道支部(支部長・坪川弘幸・(株)北海道車体・副社長)では、10月3日、札幌第一ホテルにおいて、北海道支部合同部会を開催し、15社17名が出席した。

1. 会議次第

1) 挨拶 支部長・坪川弘幸(北海道車体(株)副社長)

2) 部会長報告

①トラックバン部会長

薄田清隆(株)新明和製作所・取締役社長)

②特装部会長

三浦正博(新明和工業(株)支店長)

③トレーラ部会長

遠藤孝敏(日本フルハーフ(株)支店長)

④資材部会長

魚石寛明(株)コオヨー・取締役社長)

3) 各自己紹介を兼ねて近況報告

4) その他 情報交換

その他に、2014年度4月より始まる消費税8%が実施されることに対する話題や受注量が一年以上抱えている支部特装部会などについての意見交換が熱心に行われた。



挨拶をする坪川支部長

東北支部

■東北支部実務者交流会 及び高齢者雇用推進セミナー開催

東北支部(支部長・磯野栄治・(株)いそのボデー社長)では、11月7日～8日に実務者交流会と高齢者雇用推進セミナーを開催した。

1. 交流会

天童温泉パラスオモガミ 15時00分～17時00分

10社 15名 出席

・鈴木副支部長の開会の挨拶

参加者全員による自己紹介並びに会社の概要、実務紹介品質管理・検査態勢など活発な意見交換が多数あり有意義な交流会となった。

2. セミナー

山藤先生による高齢者雇用推進セミナー

「これからの高齢化社会の実態と会社としての再雇用の取組等」の詳しい説明を受け今後の課題が明確になった。



中部支部

■秋季研修会を開催

中部支部(支部長・尾崎二三男・(株)東海特装車取締役)では、10月18日～19日に恒例の秋季研修会を開催した。

会員12社12名の参加

で、18日は兵庫県三田市のテクノパークにある日本最大の消防車工場の(株)モリタ三田工場を見学した。

(株)モリタの消防車製造工場では一品一様の多品種の消防車がつくられる様子を間近に見ることができ、さらに消防車特有の構造についてもよく理解ができた。また、説明員の方の生産方法の変遷から、評価工程まで詳細な説明に対し多くの質疑応答が行われた。



また、翌日は異業種見学会として、ノーベル賞晩餐会で振舞われた日本酒「福寿」の酒蔵「酒心館」を見学した。

参加者同士の親睦も深めることができた研修会であり、非常に有意義な2日間であったと好評を得た。



(株)モリタ 三田工場にて

近畿支部

■秋季研修会を開催

近畿支部(支部長・堀口昇一・須河車体(株)相談役)では11月8日～9日に秋季研修会を開催した。当日は支部長以下18社21名が参加した。

京都駅と新大阪駅に集合しバスで静岡県にある日本の車載トレーラトップメーカーである(株)浜名ワークス本社工場を見学した。

車載トレーラは各陸送会社により仕様が様々であること、その中で大手自動車メーカーの陸送基準に定める能力があり、またそのレベルを維持されている様子が見学した工程からもよく分かった。

労働安全衛生マネジメントシステム等を運営しており、従業員の安全衛生を配慮している姿勢に共感した。

参加した会員からは支部会員間の交流を深められた有意義な研修会と好評であった。



■交流会開催

近畿支部(支部長・堀口昇一・須河車体(株)相談役)では10月14日に交流会を開催し、支部長以下14社18名の参加で実施した。

日頃、会員が集まれば現状や情報交換等の話題になり、結束力が更に強くなるということで、このような場を設けることの必要性をあらためて感じ、今後も企画していきたいとして、交流会を終了した。

四国支部

■秋季研修会を開催

四国支部(支部長・池浦雅彦・(株)タダノ執行役員)では、11月11日、12日に秋季研修会を開催、16社18名が参加して九州支部長会社の(株)矢野特殊自動車を訪問した。最初に矢野社長より社歴並びに直近の業績等について説明があり、続いて工場を見学。「同業社の参考・発展になれば幸い」とのことで、工場内を全てオープンに見学した。主力製品である冷凍車は、大型車で全国シェア30.3%、なかでも九州と山口県合計でのシェアは65.7%(2012年度年度実績)と伺い、「九州に矢野特殊自動車あり!」との地元に根を下ろした老舗メーカーの強さを実感した見学会であり、参加した支部会員から好評を得た。



官公庁だより NEWS+FLASH

保安基準の改正等について

国土交通省

1. 保安基準等の一部改正について(制動装置、操縦装置)

国交省は、「制動装置に係る協定規則第13号(ECE/R13)」並びに「操縦装置の配管及び識別表示等に係る協定規則第121号(ECE/R121)」の採用に伴い、保安基準等の一部を8月30日付けで次のとおり改正した。

1) 制動装置

(保安基準第12条、細目告示第15条・16条・93条・94条・171条・172条、別添10・別添11・別添15関係)

【適用範囲】 自動車(乗用車、二輪車、大型特殊車等を除く)

【改正概要】

- ・ABSの装着について、これまで義務付けていたGVW12t超のバス(路線バスを除く)やGVW7t超のトレーラ以外の自動車にも拡大し、全てのバス・貨物車(GVW3.5t以下のトレーラを除く)に義務付ける。
- ・EVSC(走行中の旋回に著しい支障を及ぼす横滑り又は転覆を有効に防止する装置)について、上記適用範囲の自動車のうち以下の自動車に装着を義務付ける等

【適用時期】 新型車に:2014年11月1日～2016年2月1日、継続生産車:2017年9月1日～2018年11月1日

2) 操縦装置

(保安基準第10条、細目告示第12条・90条・第168条)

【適用範囲】 自動車(二輪車、大型特殊車、トレーラを除く)

【改正概要】 操縦装置の配置及び識別表示等の要件について、ECE/R121を採用する。(現行の識別記号の取扱は、JIS-D0032 又はISO-2575を適合例としている)

【適用時期】 新型車、継続生産車ともに、GVW5t超のバス及びGVW12t超の貨物車については2019年2月1日、その他の自動車については2018年2月1日

<詳細は以下を参照>

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000136.html

2. 細目告示の一部改正について(排出ガス対策装置)

国交省は、軽油を燃料とする重量車の排出ガス対策について、オフサイクル状態における排出ガス成分を著しく悪化させる原動機制御を禁止するため、細目告示の一部を10月1日付けで次のとおり改正した。(細目告示第41条)

【適用範囲】 軽油を燃料とする普通自動車、小型自動車(並行輸入自動車を除く)のうち、GVWが3.5t超のもの

【改正概要】 オフサイクル(JC05モードの領域外)状態において、自動車から排出される排出ガスを著しく増加させる原動機制御を禁止するための規定を追加する。

【適用時期】 新 型 車：2013年10月1日

継続生産車：2015年3月1日

3. 自動車型式認証実施要領

及び輸入自動車特別取扱制度の一部改正について

国交省は、自動車型式認証実施要領及び輸入自動車特別取扱制度の一部を10月29日付けで次のとおり改正した。

【改正概要】

- ・新車登録前の型式指定自動車に対する限定された変更の容認(認証実施要領のみ)
- ・外国自動車試験機関の取扱の変更等

【施行日】 2013年10月29日

4. 細目告示の一部改正について(灯火器等の取付け)

国交省は、灯火器等の取付けに係る協定規則(ECE/R48)の改正に伴い、細目告示の一部を11月1日付けで次のとおり改正した。

1) 灯火器等の取付位置に係る改正

【適用範囲】 車幅灯、前部上側端灯、前部反射器、側方灯、側方反射器、尾灯、駐車灯、後部上側端灯、後部反射器、制動灯、方向指示器

【改正概要】 灯火等の視認角を緩和する条件を、「当該灯火等の下縁の高さが地上〇〇m未満」又は「上縁の高さが地上〇〇m未満」と定めていたものを、「当該灯火等のH面の高さ(基準中心)が地上〇〇mm未満」に変更する。

2) その他

【適用範囲】 灯火器等(大型後部反射器及び補助方向指示器を除く)

【改正概要】 誤記訂正、協定規則項目整理に伴う改正

3) 適用時期

2013年11月3日(ただし、車幅灯及び方向指示器については2017年11月18日以降に型式の指定を受ける自動車に適用)

5. 大型特殊自動車又は小型特殊自動車に該当する自動車の判断基準の一部改正について

国交省は、新たな構造の農耕トラクタを大型特殊自動車として認めるため、標記判断基準を11月5日付けで次のとおり改正した。

【改正概要】 農耕トラクタの構造上の要件に「かじ取り車輪を油圧のみを用いて作動させることにより操向す

る構造のもの。」を追加する

【施行日】 2013年11月5日

6. 基準緩和認定要領の一部改正について

国交省は、これまで構造改革特別区域の特例措置として扱ってきた取扱いを全国展開するため、保安基準の緩和認定に関する規定を11月5日次のとおり改正した。

【改正概要】 従来から、「道路を横断する場合に限り運行するものであって、分割可能な貨物を保安基準第4条(車両総重量)、同第4条の2(軸重等)に定める基準を超えて積載し、かつ輸送することができる構造の自動車(トラクターを除く)」を、基準緩和の認定を申請することができる自動車として定めていたところであるが、これに加え、「分割可能な貨物を保安基準第2条(長さ)、第6条(最小回転半径)に定める基準を超えて積載し、かつ輸送することができる構造の自動車(トラクタを除く)であって、長さ(トレーラにあっては連結全長)が21.5m以下のもの」を基準緩和の認定を申請することができる自動車として追加する。

【適用時期】 2013年11月5日以降基準緩和の認定の申請から適用

7. 保安基準等の一部改正について

(運転者席、車線逸脱警報装置、衝突被害軽減ブレーキ)

国交省は、「自動車の運転に必要な直接視界に係る協定規則(UN-R125)」、「車線逸脱警報装置に係る協定規則(UN-R130)」、「衝突被害軽減ブレーキに係る協定規則(UN-R131)」の採用に伴い、保安基準等の一部を11月12日付けで次のとおり改正した。

1) 保安基準の改正

運転者席

【適用範囲】 乗用車

【改正概要】 運転に必要な視野を確保するため、Aピラーによって視野が妨害される許容角度要件を新たに規定。同様に、運転者席において左右180°及び一定の上下方向の視野範囲における遮蔽物の設置を禁止。

【適用時期】 新 型 車：2016年11月1日

継続生産車：2018年11月1日

2) 車線逸脱警報装置

【適用範囲】 乗用車、GVW3.5t超の貨物車(トレーラを除く)

【改正概要】 車線逸脱警報装置を備える場合は、協定規則に適合し、直線路又は曲線路(曲率250m以上)を走行中、意図に反して車線逸脱した場合に作動しなければならない。車線逸脱警報は、視覚、聴覚、触覚のうち少なくとも2種類の手段で提供する。

【適用時期】 新型車、継続生産車：2015年8月1日
3) 衝突被害軽減ブレーキ

【適用範囲】 GVW5t超のバス、GVW8t超の貨物車(トレーラを除く)(※高速道路等を運行しないものを除く)
【改正概要】 装着が義務付けされる前に衝突被害軽減ブレーキを備える場合は、協定規則に適合しなければならない。ただし、装着義務付けが適用されるまでの間は、現行の基準に適合するものであればよい。装着義務付け時期以降は、協定規則に適合しなければならない。衝突被害軽減ブレーキは、先行車のうち、より低速で走行中の車両、減速して停止した車両、移動が確認されなかった静止車両との衝突の可能性を検出したときに、視覚、聴覚、触覚のうち少なくとも2種類以上手段により警告を行った上で、緊急制動を行うこととする。

【適用時期】	新型車		継続生産車	
	基準適合義務	装着義務	基準適合義務	装着義務
GVW5t超～12t以下のバス	2013年1月27日	—	2013年1月27日	—
GVW12t超バス	2013年1月27日	2014年11月1日	2013年1月27日	2017年9月1日
GVW8t超～20t以下のトラックを除く貨物車	2012年3月12日	—	2012年3月12日	—
GVW20t超～22t以下のトラックを除く貨物車	2012年3月12日	2016年11月1日	2012年3月12日	2018年11月1日
GVW22t超のトラックを除く貨物車	2012年3月12日	2014年11月1日	2012年3月12日	2017年9月1日
GVW13t超のトラック	2012年3月12日	2014年11月1日	2012年3月12日	2018年9月1日

4) 装置型式指定規則の改正
【改正概要】 相互承認(外国政府も認定を受けている場合、型式指定を受けたものとみなす)の対象となる特定装置に、「衝突被害軽減制動制御装置」、「運転者席」、「車線逸脱警報装置」を追加する。
【公布・施行期日】 2013年11月12日

経営革新等支援機関として新たに1,361機関を認定 中小企業庁

中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律第17条第1項に基づき、新たに1,361機関を経営革新等支援機関として認定した。これにより、経営革新等支援機関数は、18,806機関となった。

この機関は中小企業に対して、税務、金融及び企業財務に関する専門性の高い支援を行なうためのものである。一定の要件の下、認定支援機関が経営改善計画の策定を支援し、中小企業・小規模事業者が認定支援機関に対し負担する経営改善計画策定支援に要する計画策定費用及

びフォローアップ費用の総額について、経営改善支援センターが、3分の2(上限200万円)を負担するものである。
<詳細は下記を参照>
<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kakushin/2013/131028Nintei.htm>

中小企業投資促進税制の上乗せ措置について 中小企業庁

民間投資活性化等のための税制改正大綱(2013年10月1日発表)において、中小企業・小規模事業者の設備投資を応援する中小企業投資促進税制が延長・拡充されることになった。拡充後の上乗せ措置について、以下のとおり。
(1) 個人事業主、資本金1億円以下の法人の方々については、今でも中小企業投資促進税制が措置されている。この税制は、新品の機械などを購入した場合などに、以下を選択し、優遇措置を受けられる。
①30%の特別償却(個人事業主、資本金1億円以下法人)
②7%の税額控除(個人事業主、資本金3千万円以下法人のみ)
(2) 優遇措置の内容を大きく(上乗せ措置を創設)し、投資を「もっと」応援するもの
①30%の特別償却 ⇒ 即時償却可能に
②7 %の税額控除 ⇒ 10%の税額控除
⇒ 税額控除の適用範囲を拡大(資本金3千万円超法人でも税額控除を利用可能に)を図っている。

<詳細は下記を参照>
<http://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/zeisei/2013/131114sokusinzeisei.htm>

「消費税転嫁対策室」の設置について 経済産業省

2014年4月1日に予定される消費税率の引上げに際し、消費税を円滑かつ適正に転嫁できるかどうかは、事業を行う方々にとって最大の懸念事項の一つ。経済産業省は、「消費税転嫁対策室」を設置し、消費税の転嫁に係る取引上の悩み等に関し、電話で、または直接会って相談できる体制を整備したので紹介する。

<詳細は下記を参照>
<http://www.meti.go.jp/press/2013/10/20131002004/20131002004.html>

2013年工業統計調査を実施します

会員の皆様も調査にご協力願います。



政府統計
統計法に基づく国の統計調査です。調査情報の秘密の保護に努めます。

工業統計調査

平成25年
調査期日 **12月31日**

経済産業省・都道府県・市区町村
<http://www.meti.go.jp>

皆様のご回答をお願いします。

第10回日本自動車会館交通安全キャンペーンが開催

日本自動車会館の入館団体・企業で構成する「日本自動車会館運営委員会」により、秋の全国交通安全運動期間中の9月26日に「第10回日本自動車会館交通安全キャンペーン」が開催された。イベント当日は、近隣の御成門小学校の児童を対象に、日本盲導犬協会による「盲導犬と一緒に学ぶ交通安全教室」や日本自動車連盟による「クルマの死角の勉強会」を開催した。また自動車技術会主催の学生安全技術コンペティションで最優秀賞を受賞した東京都市大学による交通安全技術プレゼンテーションも開催された。さらに本イベントの若者の参画を図る意味から始めた交通安全ポスターのデザインコンテストも実施、「家族で広げよう交通安全」をテーマとし、応募数は20作品が寄せられ、最優秀作品は、瀧澤菜月さんの「教える安全・見守る安心」をコンセプトにしたポスターが選ばれた。



冬期におけるトレーラのブレーキ機器の点検整備のお願い

トレーラ使用におきまして、ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するために、エア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を、今年もお忘れなく実施いただきますようお願いいたします。

リレー・エマージェンシー・バルブ内に水分があると、冬期に水分が凍結し当該バルブ内のピストンが固着することにより、ブレーキが作動し続け、ブレーキの引き摺りが発生し、最悪は火災に至ることがあります。



ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けて下さい。

9月			
3日	特装部会／ 脱着キャリアコンテナ技術分科会	①脱着車(キャリア)の取扱説明書に記載する各部名称の統一名称決定 ②キャリア部品の交換時期の調査結果報告 ③ドイツにおける脱着車の構造基準等実態調査結果報告	▶P.8
	商用車ショー企画委員会	①車体工業会合同ブースレイアウト最終確認 ②出展会社PR活動の進捗状況報告 ③配布パンフレット作成の進捗状況報告	
4日	中央技術委員会／ 突入防止装置技術委員会	①ドイツ政府から国連に提出されたECE/R58改正提案についての説明 ②同改正提案に対する車体工業会の方針決定	
5日	第3回チャレンジ5推進委員会	①本年度調査分析概要を確定 ②行政への要望案を論議し、理事会提案内容を決定 ③詳細日程を確認	
6日	トラック部会／技術委員会	①荷台各種床材の強度試験方法、試験日程を決定 ②JABIA規格「車輛運搬車の構造基準」改定案討議 ③平ボデーのコーションプレート統一化案を論議	
	小型部会／技術委員会(静岡)	自動車技術会主催の学生フォーミュラ視察	▶P.16
	労政合同勉強会(東京)	「女性の活躍促進」先進事例紹介 サントリーホールディングス(株) 弥富 洋子氏 ジャコ(株) 永田 真由美氏	▶P.13
10日	トレーラ部会／サービス委員会	①ブレーキ機器の点検整備方法の論議 ②2013年度版点検整備方式の周知状況確認 ③工場見学会の進め方論議	
13日	特装部会／ローリ技術分科会	JABI規格-P1102(石油類運搬用アルミニウム合金製タンクトレーラの安全構造基準) について、現行規定継続を決定	
19日	バス部会／塗装デザイン研究会	①色見本帳製作に向けた進捗確認 ②塗装勉強会の講義・実技内容の確認	
	環境委員会／工場環境分科会	①2012年度CO ₂ 、VOCフォローアップ調査結果議論 ②2013年度以降のVOC削減の進め方議論 ③2013年度産廃フォローアップ調査の進め方議論	
	特装部会／技術委員会	①特装技術委員会・分科会の事業推進状況報告 ②特装技術委員会・分科会が抱える課題等を論議 ③ECE/R58改正提案に関する最新情報の説明	
20日	環境委員会／ 架装物リサイクル分科会	①環境基準適合ラベル取得向上策の議論 ②2013年度リサイクル産構審結果報告 ③環境負荷物質フリー宣言100%進捗結果報告	
	小型部会・特種部会／合同見学会(宮城)	トヨタ自動車東日本(株)宮城大衡工場の見学会を実施	▶P.15、P.17
24日	バン部会／業務委員会	①アジア諸国の車両規格調査項目内容を協議 ②会員支援の具体的な実施項目の討議 ③大手支部会員正会員化の対象会社確認と進め方論議	
25日	トレーラ部会／技術委員会	①ブレーキ機器点検啓発他進め方論議 ②調査研究項目の進め方論議 ③直近の法規動向情報共有	
	支部連絡会(山形)	支部活動の「良いとこ取り情報」を共有	
26日	特種部会／第2回合同委員会	①扉安全性対応WG:自動車検査法人打合せ結果報告実施 ②自動車検査法人:技術検討会内容を論議、日程を仮決め ③社内教育合同開催を論議し、アンケート調査を決定	
	トレーラ部会／製品安全委員会	①ブレーキ機器点検啓発他進め方論議 ②次年度の活動についての論議	
27日	中央技術委員会	①事業計画の推進状況説明 ②ECE/R58改正提案に対する対応方針について、 国際自動車工業会(OICA)と合意した内容の説明	▶P.11
	トレーラ部会／業務委員会	①調査研究項目の進捗確認 ②市場・税制動向の情報共有	

10月			
2日	第2回環境委員会	①環境基準適合ラベル取得向上策の議論 ②2013年度リサイクル産構審結果報告 ③環境負荷物質フリー宣言100%進捗結果報告 ④2012年度CO ₂ 、VOCフォローアップ調査結果報告 ⑤2013年度以降のVOC削減の進め方決定	▶P.12
4日	第2回中央業務委員会	①2014年度税制改正要望まとめの実施 ②不正改造車排除強化月間活動結果を報告 ③支部大手会員正会員化への訪問対応を決定	
7日	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.34(粉粒体運搬車編)の内容について検討。 次回修正案提示 ②補修部品の供給体制に係るアンケート内容を検討し、 実施方法は技術委員会に相談することを決定 ③異業種工場見学会検討	▶P.14
8日	トレーラ部会／サービス委員会	①ブレーキ機器の点検整備方法論議 ②2013年度版点検整備方式の周知状況確認 ③工場見学会の進め方決定	
9日	バス部会／技術委員会	①横向き跳ね上げ席改善試作品の進捗確認 ②自工会とのバス合同分科会へ参画の情報・意見交換を実施 ③車体規格集改定の進め方確認	
10日	バス部会／ワンマン機器委員会	①JABIA規格の棚卸(運賃箱) ②車載が多いドライブレコーダーの仕様等の調査すべき項目の整理 ③EMC(電磁両立性)法規への影響確認	
11日	トラック部会／ 業務委員会、役員会議	①会員支援の具体的実施項目を選定し優先順位を検討 ②大手支部会員の正会員化の対象会社確認と進め方論議	
17日	常任委員会	大手支部地域会員の正会員化取組対応について論議	
	第223回理事会	①審議事項 第1号議案 新入会員に関する件 ②報告事項 1) 2013年度2/4期 事業計画 本部・部会・支部別活動実績まとめ 2) 2013年度2/4期 収支実績まとめ 3) 2012年度 会員企業の売上高/従業員数まとめ 4) 平成26年度 税制改正に関する要望書 5) チャレンジ5推進委員会の検討状況と課題 6) 高齢者雇用推進事業の進捗状況報告 7) CO ₂ 及びVOC排出量フォローアップ結果 8) 環境負荷物質フリー宣言100%化の結果と課題について 9) 2012年度 PL事故例と対応策について 10) 2013年度 調査研究計画について 11) 最近の商用車販売、生産状況 12) 最近の官公庁関係情報 13) その他報告事項	
	講演会	「大型トラック・バスの市場動向と架装メーカー殿に望むこと」 講師：藤岡 泰生氏(三菱ふそうトラック・バス(株))	▶P.5
		「高齢者雇用が企業を強くする～高齢者雇用推進委員会報告～」 講師：藤村 博之氏(法政大学専門職大学院)	▶P.7
18日	特種部会／ 第4回扉安全性対応WG	①自動車検査法人との打合せ結果報告 ②扉形式/種類の論議と調査内容を決定 ③作業日程論議と確定	
	特装部会／部長報告会	事業計画の進捗状況について各委員長から説明	
22日	東京モーターショー出展社会議	①車体工業会合同展示の装飾・設備内容の最終確認 ②全体スケジュール・運用スケジュールの調整確認 ③PR活動の最終調整・確認	
23日	トレーラ部会／技術委員会	①ブレーキ機器点検啓発他進め方論議 ②調査研究項目の進め方論議 ③直近の法規動向情報共有	
	第4回チャレンジ5推進委員会	①「選択と集中」前半の内容論議とまとめ ②後半の内容/「アライアンスのあり方」を論議 ③部会活動への促進依頼を実施	
24日	特装部会／塵芥車技術分科会	①特装技術委員会(9/19)内容の説明 ②「塵芥車の保守点検等の実態調査」の請負業者からの中間報告実施	

25日	バン部会／技術委員会	①アジア諸国の車両規格調査項目の論議 ②車検時提出書類の統一化検討の進捗状況確認 ③LED灯火器の不具合発生対応の勉強会実施	▶P.16
	特装部会／ テールゲートリフタ技術分科会	①ECE/R58改正提案に関する国連会議（GRSG）の結果を含めた最新情報説明 ②中央技術委員会結果等の情報展開	
	トレーラ部会／ 工場見学会（愛知）	トヨタ車体㈱吉原工場の見学会を実施	▶P.16
	バス部会／塗装勉強会（愛知）	塗装技術者向け勉強会の実施、16社26名参加 ・大日本塗料㈱小牧工場 ・講義：塗装品質向上への取り組み ・実技：補修塗装と静電塗装	▶P.16
29日	トレーラ部会／製品安全委員会	ブレーキ機器点検啓発他進め方論議	
	トラック部会／ 部会会議及び工場見学会（新潟）	19社23名が参加し開催 ①部会会議;事業計画の進捗状況報告と進め方論議 ②工場見学;㈱北村製作所バン型車、基地局舎の製造工程	▶P.15
30日	特装部会／ ミキサー車技術分科会	①水ポンプ・スイッチボックスの共通化決定 ②JIS-A8614（安全要求事項）対応のためのガイドラインの検討	
	トラック部会／車輻運搬車分科会	①（社）日本陸送協会との合同研修会議題を協議 ②後部突入防止規制（R58）強化案内容と動向を討議	
31日	バス部会／ワンマン機器委員会	各社のドライブレコーダー仕様調査	

11月			
8日	環境委員会／架装物リサイクル 分科会工場見学会（東京）	①日野自動車㈱日野工場の見学実施 ②昭和飛行機工業㈱昭島工場の見学実施	▶P.12
	高齢者雇用推進委員会／東北支 部（山形）	高齢者雇用推進セミナー開催 （改正法をふまえた企業経営のあり方を考える）を開催 講師：山藤 康夫氏（日鉄住金総研㈱）	▶P.13
11日	中央技術委員会／ 突入防止装置技術委員会	①R58改訂提案とGESG,GRSG結果報告 ②トレーラ部会RUP試験計画への説明 ③R58改訂提案のJABA対応方針協議 ④JABIAプレート販売状況確認 ⑤監査要否の協議	
	高齢者雇用推進委員会／ 九州支部・四国支部（福岡）	高齢者雇用推進セミナー開催 （改正法をふまえた企業経営のあり方を考える）を開催 講師：山藤 康夫氏（日鉄住金総研㈱）	
12日	トレーラ部会／サービス委員会	①ブレーキ機器の点検整備方法の論議 ②工場見学会の結果報告 ③サービス情報のメンテナンスの進め方論議	
14日	特装部会／工場見学会（栃木）	新明和工業㈱佐野工場の見学会を実施	▶P.14
19日	トラック部会／業務委員会	①会員支援の具体的実施項目の優先順位順を決定 ②大手支部会員の正会員化の対象会社について論議	
21日	トラック部会／ 陸送協会と合同研修会（東京）	①車輻運搬車の改善点及び安全作業に関して意見交換実施 ②車輻運搬車の生産台数状況の情報交換	
	特装部会／ ダンプ技術分科会	①手動格納式RUPベンチテスト（R58対応） ②取扱説明書名称統一の協議	
22日	秋季会員大会 （東京ベイ有明ワシントンホテル）	2013年度秋季会員大会を開催	▶P.3
23日 ↓ 12月1日	東京モーターショー （東京ビッグサイト）	車体工業会からは東展示場屋内に小型3社、 東屋外展示場に11社15台を展示	▶P.9
25日	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュースNo.34（粉粒体運搬車編）の最終確認 ②部品供給に関するアンケート調査の実施方法論議	
26日	トラック部会／ 工場見学会（神奈川）	①㈱オカムラ物流の横浜物流センター見学 ②JFEエンジニアリング㈱の鶴見製作所見学	▶P.15
	バス部会／塗装デザイン研究会	塗装勉強会の振り返りまとめ	
	中央技術委員会／ISO26262WG	塵芥車のハザードリスクアセスメント実施	

26日	トレーラ部会／技術委員会	①ブレーキ機器点検啓発他進め方論議 ②調査研究項目の進め方論議 ③直近の法規動向情報共有	
27日	特種部会／ 第5回扉安全性対応WG	①扉形式/種類の調査結果報告 ②法規への対応内容論議 ③対応日程詳細論議	
28日	トラック部会／技術委員会	①荷台各種床材の強度試験実施結果の報告 ②平ボデーのコーションプレート統一化案決定 ③JABIA規格「車輻運搬車の構造基準」改定案報告	
	バス部会／ワンマン機器委員会	各社のドライブレコーダー仕様調査まとめ	
	労政合同分科会	①㈱ソーシン工場見学の実施 ②秋の労働諸条件要求状況等の情報交換実施	▶P.14
29日	トレーラ部会／製品安全委員会	ブレーキ機器点検啓発他進め方論議	
	第3回広報委員会	①2013年度広報活動事業計画の進捗状況確認 ②車体NEWS冬号記事の校正と2014年春号企画合意	
	特装部会／ローリ技術委員会	①タンクローリに表示する「危」看板の取付けに関するシャシメーカーへの用望事項 ②JABIA規格の見直しの検討	

会 員 情 報	
■ 入 会	
準会員	㈱パーマンコーポレーション 代表取締役社長 吉原 雅郎 〒550-0021 大阪府大阪市西区川口4-1-5 電話番号：06-6584-2001 FAX番号：06-6584-1010 【主要製品】 自動車部品、工具、用品他 マルワ工業㈱ 代表取締役社長 吉見 正彦 〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町段下1333-3 電話番号：0568-56-0211 FAX番号：0568-56-0811 【主要製品】 大型後部反射器、後部反射器、車両ステッカー他
■ 代表者変更	
正会員	高田工業㈱ 取締役社長 末次 正博
■ 本社移転	
正会員	司工業㈱ 本社 〒134-0083 東京都江戸川区中葛西2-7-9 クレストU 1階 電話番号：03-3689-3321 FAX番号：03-3688-4572 （電話番号、FAX番号は今まで通り変更ありません）
準会員	インファステック㈱ 本社 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル8階 電話番号：03-6867-1260 FAX番号：03-6867-1265

お知らせ	2014年 自動車工業団体新春賀詞交歓会のご案内	
	● 日 時	2014年1月7日（火）16:00～17:30
	● 場 所	グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール3階「崑崙（こんろん）」 東京都港区高輪 3－13－1 電話番号：03－3442－1111
	● 参加費	1名につき 10,000円
	● 問合せ先	一般社団法人日本自動車車体工業会 総務部
	技術発表会のご案内	
	● 日 時	2014年1月16日（木）14:30～16:40
	● 場 所	日本自動車会館1階 くるまプラザ会議室
	● 内 容	会員各社の新技術、新製品についての発表5件



砂田 金夫 代表取締役社長



DATA

- 本社
〒798-4341
愛媛県南宇和郡愛南町蓮乗寺
467-2
TEL 0895-72-1128(代)
FAX 0895-72-2348
URL:
<http://seinan-katsugyo.co.jp/>
- 資本金 2,000万円
- 従業員 15名
- 事業所規模
敷地 約 8,000㎡
工場 約 3,500㎡
- 車体工業会加入
1993年(特種部会)



西南自動車工業(株)

地元愛媛だけでなく、全国の水産・養殖産業へ貢献する活魚輸送システム

温暖な気候に恵まれた愛媛県の西南部に位置する南宇和郡。豊かで穏やかな海に囲まれた養殖漁業が盛んな地で、西南自動車工業(株)は地元産業だけでなく全国の水産業者に活魚運搬車で貢献している。

取材／車体工業会事務局次長 瓜谷 優一

● 特徴・沿革

西南自動車工業(株)は1968年に自動車整備の専門工場として創業した。豊かな海に囲まれた南宇和は養殖漁業が盛んなこともあり、地場産業とともに発展するため、1978年から活魚の輸送システムの開発に着手した。当時は、まだ活魚の長距離輸送方法が確立しておらず、生き物である魚を相手に、漁業関係者とともに試行錯誤を繰り返した。およそ2年の開発期間を経て、1980年から活魚輸送車の製造を開始。以来、独自の活魚輸送ノウハウを蓄積、改良を重ね、25tクラスを中心にユーザーニーズに合わせた様々な活魚運搬車を製造している。

製造当時は、香川県の高松からフェリーを使って大阪までの運搬が主だったが、搭載する機器やシステムの進化が進み、交通網も整備された現在では、全国どこにでも活魚を輸送することができるようになった。

西南自動車工業(株)は全国で生産される活魚輸送車で大きなシェアを持ち、長年培った技術を生かして、市場等で使われる活魚の定置水槽の製造も行っている。

この優れた技術と豊富な知識で、車体工業会のJABIA規格「活魚運搬車自主安全等構造基準」の検査工場として、安全面にも貢献している。



フェリー利用時の火災防止のための「活魚運搬車自主安全等構造基準」規格



車体に貼付するラベル

● 製品

― 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

砂田社長 現在は活魚運搬車と定置水槽の製造を専門としています。弊社独自の海水循環システムによって、高い歩留まりでの活魚輸送を実現し、水流管理とろ過装置のノウハウを生かした定置水槽システムを全国の市場や水産関係者にご利用いただいています。他にもイカの活魚パックの開発など、長年培った活魚の知識で様々な製品・サービスを提供しています。

活魚輸送車に求められる「少量の海水に大量の活魚を収容し、効率よく経済的に運ぶこと」の実現は大変難しく、通常のエアポンプだけでは水の動きが止まってしまう、大量の魚が死滅してしまいます。弊社の運搬車は魚に傷がつかないように分けられたカゴで効率よく大量に収納し、さらに水槽内に水流を作り出し、水中の溶存酸素をムラなく一定に保ち続け、魚を長時間生かし続けることができます。

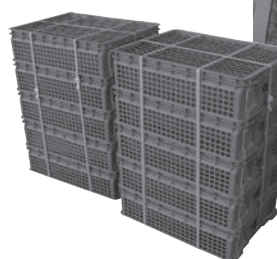
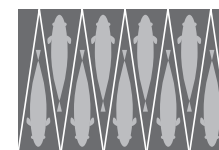
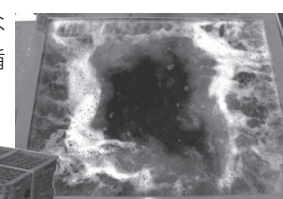
― どのような車体を手がけているのでしょうか？

大型の活魚運搬車の製造では、地場産業の養殖漁業者の他に、全国のお客様にご使用いただき、国内シェア30%以上を有しています。2tクラスからトレーラ用まで様々な車体を手がけていますが、運搬効率から20～25tクラスが活魚運搬車の主流となっています。「機能」と「美」を兼ね備えた「水槽」のデザインにもこだわり、余計な突起物を可能な限り、排除することを心がけています。

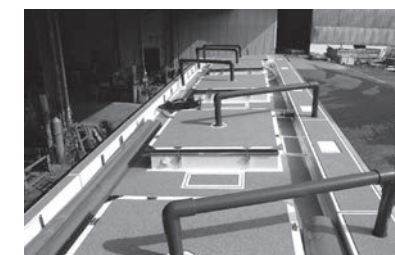


活魚運搬のノウハウを生かした定置水槽

水面に海のような水流を生み出す循環システム



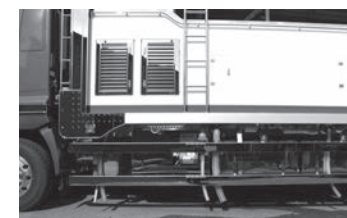
活魚を整理させて収納できる専用の魚カゴを用いることで大量輸送を実現



魚の出し入れ作業をしやすいようにデザインされた車両に搭載した水槽の屋根



活イカ類はスミを吐いて水質を悪化させるため、水槽運搬に不向きである。パック詰めして運ぶアイデアはテレビ番組でも紹介された。



水槽窓、排水パイプ、ダクトなどが美しく配置されたボデー側面



トレーラ用では市場で大きすぎるため、25tクラスが主流となっている。凹凸の少ない外観にこだわった洗練されたボデー

● 人

― 御社の特徴は？

弊社では20～60歳代までのスタッフが働いています。1台ごとに異なる仕様であり、ポンプや様々な水質管理機器を搭載しなければなりません。出荷時の動作チェックなど覚えることが多いため、ベテランとともにマンツーマンで仕事に慣れてもらうようにしています。

― 次世代への教育について

ユーザー視点に立ち、より良い物を追求して行くことが、弊社製品の品質向上、活魚運搬の更なる高効率化の実現につながります。活魚運搬車の製造にあたり「快適な環境」「コスト」「機能美」「安全」「シルエット」の5つを意識して仕事をするように指導しています。



デリケートな生き物を運ぶ車体作りには、様々な知識と技術が求められる。

印刷技術で安全を支える

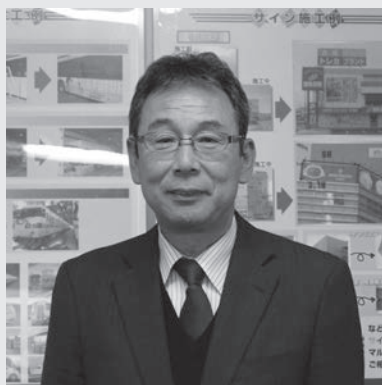
1970年創業のマルワ工業(株)は、シルクスクリーン印刷を事業の中核とし、自宅で作れるTシャツへの転写シートなど身近なものから、電車や建築物の装飾用のマーキングまで、大小様々な素材に対応した多くの商品を世に送り出している。蓄積したノウハウと、様々な印刷技術によって開発した特許・実用新案製品(蛍光・蓄光・反射材等)の粘着シートの製造販売も行っている。またLED発光式の交通標識等の安全に寄与する製品も数多く開発している。

マルワ工業(株)が開発した「超耐候性蛍光シート(スーパーミタック)」は、鮮やかな蛍光カラーが経年劣化によって色が褪せることがない世界で唯一の蛍光フィルムである。その製品を生かし、およそ20年前大型後部反射器の製造に参入する。

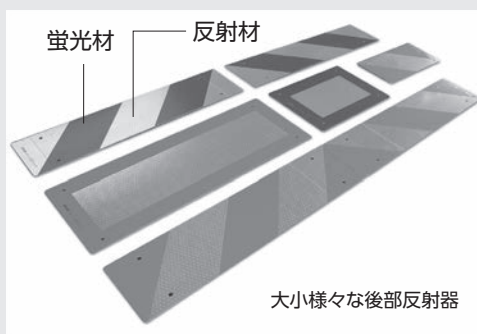
■ 認可取得までの努力

当時、認可を受けた前例を持たない会社が、安全対策用品の型式認可を取得することは大変困難であった。まだパソコンも普及していない時代であり、申請に必要な膨大な図面や書類を何度も手書きで作り直したという。関係省庁の指導と協力の下、工場設備の改善等、問題点を一つ一つ解決していき、地道な努力を積み重ねていった。

そして「超耐候性蛍光シート」とカプセルレンズタイプの反射材を独自の技術でアルミ板に印刷した大型反射器は、運輸省(当時)の厳しい認定基準をすべてクリアし、高品質な反射器として交通安全に多いに貢献した。

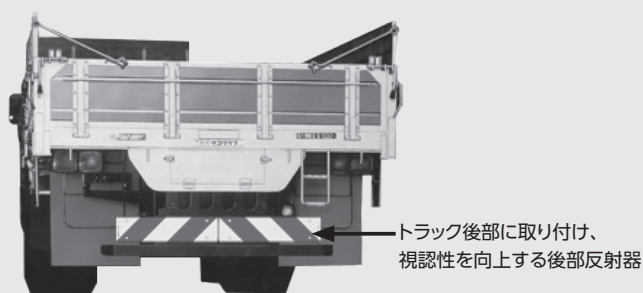


岸本 利夫
取締役 営業部長
営業のトップ。マルワ工業(株)の製品すべてを知り尽くしている。



マルワ工業(株) 代表取締役社長 吉見 正彦
印刷という「情報加工」を通じて、人々の暮らしを快適に安全に…。社会や文化に貢献していきます。
【本社】〒486-0932 愛知県春日井市松河戸町段下1333-3 Tel:0568-56-0211
<http://www.maruwa-prc.co.jp/>

マルワ工業(株)



トラック後部に取り付け、視認性を向上する後部反射器

■「ECE R70」と蛍光印刷へのこだわり

2011年9月より義務化されている新規格「ECE R70」では、旧規格のおよそ2.5倍の輝度が必要なプリズムタイプの反射材を組み合わせる必要があり、従来のカプセルレンズタイプのように印刷では対応することができなくなった。

そこで、蛍光フィルムに強みを持っているマルワ工業(株)では、プリズムタイプの反射材の上に、ゼブラ状に「超耐候性蛍光材シート」を貼り合わせる新製品の開発に着手する。しかし、異なる部材の貼り合わせは隙間が生じ、剥離しやすくなる可能性が高く、耐久性の面で認可基準を満たすことができない怖れがあった。シートを貼った上をさらにコーティング材で覆う方法で解決できることではあったが、蛍光の発色の低下と重量の増加につながることになる。

マルワ工業(株)では、あざやかな蛍光発色を保つために、コーティングしなくても耐久性を確保する技術に敢えて挑戦する。それまで培ったノウハウを集積して、高い耐久性を維持できる蛍光シートの貼り合わせを確立することに成功。検査官立会いの厳しい耐久テストも見事にクリアし、「ECE

R70」対応製品として認可を受けることができた。

自社の持つ優れた蛍光材を生かし、日中の霧や曇の下では反射材よりも蛍光材の方が視認性が高く、夜間だけではなく日中の安全性にもこだわった商品を作り上げた。

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

天然素材の質感と高機能を両立

共和レザー(株)は、創業1935年の長い歴史と国内市場シェア70%を誇る自動車内装材分野のトップ企業であり、多くの車両メーカーに様々な表皮材を供給している。また、壁紙・家具・履物・雑貨等の身近な製品をはじめ、建築材に代表される産業用資材等、豊富な商品バリエーションを持っている。材料開発から生産までを一貫して行うことができる提案型企業として、「高品位+高質感」「快適性」「軽量化」「低コスト」「環境配慮」をコンセプトに最新の技術開発を行っている。

■本革、天然素材に近づく高品位と高質感

自動車のシートやインパネ、ダッシュボード、アームレストのように、目に見えて触れることができる表皮材は、性能とともに人間の感性に訴えかける品質とデザインが求められる。快適さに大きく影響する資材である。共和レザー(株)では、「スベスベ」や「しっとり」等の曖昧な触感を独自に数値化・マッピングし、強度やコストを考慮しながら素材を使い分けた材質開発で、多様な製品群を作り出している。

人が座るシートには触感のよいやわらかい材質を使い、ダッシュボードには品のいい光沢と高い質感を持ったものを使う。その上で空間全体の統一感を損なわないような製品にしていかななくてはならない。開発陣には繊細なバランス感覚が常に求められている。



人が触れる様々な箇所に、用途に適した表皮材が使用されている。



萩野谷 昌吾
技術企画室 営業企画室 主事
(2002年入社)

植松 靖夫
営業企画室 室長
(1978年入社)

技術、営業各部門において製品開発や販売拡大のサポート、フォローを行う。

共和レザー(株)

■「シボ」のデザイン

表皮材の品質において、重要な要素が「シボ」と呼ばれる表面の微細な凹凸のテクスチャーである。合成皮革の表面に、天然皮革の持つ凹凸パターンを再現し、触感・質感をさらに高める効果を出している。

この凹凸のデザインが表皮材に光沢や高い品位、心地よい触感を与えている。普段、自動車に乗るときには強く意識することはないかもしれないが、内装全体の雰囲気を決めているといえよう。

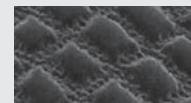
「シボ」のデザインにはトレンドの変化があり、提案型の企業の責任として、国内だけでなく海外においても市場調査と情報収集を行い、流行を捉えた新しいデザインを創造し続けなければならない。

■レーザー彫刻によるデザインの自由度

従来のアナログ工法では世界中から集めた天然の皮革類をサンプリングしたデザインを転写、型を削る等、いくつもの工程を経て、ロール機に転刻していた。製品になるまで数か月かかり、デザインの幅にも制限があった。

2000年に共和レザー(株)が日本で初めて導入したレーザー彫刻製法によって、デザインの自由度が大幅に向上し、工期も短縮することに成功した。

CGでデザイナーがゼロから作成したオリジナルデザインはレーザービームによって、超微細に彫刻され、自然界には存在しないパターンや幾何学的な文様等、まったく新しいデザインを短期間で商品化することができるようになったのだ。進化していく合成皮革材とともに、表現力が向上したデザインを活かして、斬新で快適な空間を演出してくれる表皮材が登場することが期待される。



幾何学模様のシボ

共和レザー(株) 取締役社長 宮林 克行
創造と挑戦の心、環境と調和する知恵を活かして、世界のお客様に新しい価値をお届けします。
【本社】〒430-8510 静岡県浜松市南区東町1876
Tel : 053-425-2121 <http://www.kyowale.co.jp/>

知りたい 第18回 そこが

新東名が開通して どう変わった？

新東名高速道路の静岡県内区間のうち、御殿場ジャンクション(JCT)から三ヶ日JCTまでの約162kmが、2012年4月に開通し、まもなく2年を迎える。

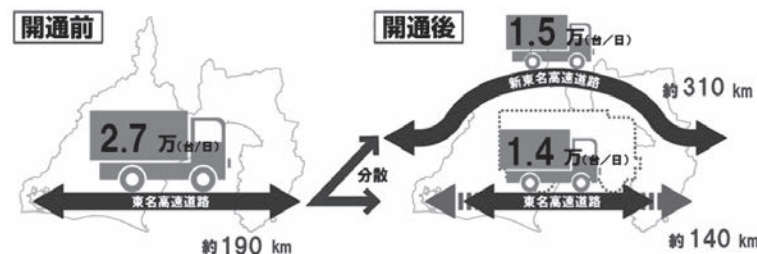
構想から20年以上をかけ開通した新東名は、構想時からの環境変化を踏まえ、さらなる高速ネットワークのスタートとなるものである。「人」と「もの」の流れを考え、渋滞というムダの改善はもちろんのこと、利用者の安全・安心の追求、地域との連携強化、そして新技術への対応を高度に実現しようとしている。

今回は、開通後の実態を見ながら物流がどう変わったのか。また、物流の将来がどう変わっていくのかについて調べた。

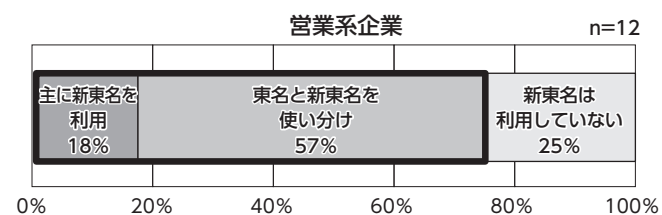
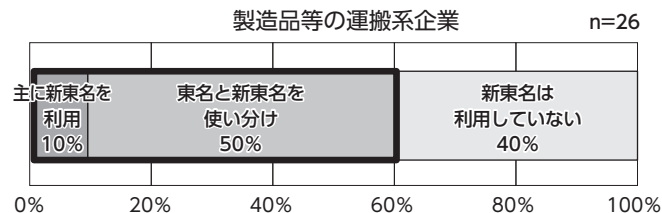
Q1 物流の変化は？

1. 新東名と東名の役割分担の明確化

静岡県内を通過する交通の約7割は新東名を利用、県内移動の約8割は東名を利用、新東名と東名の役割分担が明確化した。新東名の大型車の平均移動距離は約310kmである一方、東名は約190kmから140kmに減少し、東名の移動距離の長い通過交通が新東名に転換し、東名の大型車の平均交通量は、開通前に比べ減少した(2.7万台/日→1.4万台/日)。



出典：中日本高速道路(株) 高速道路利用データ
開通前：2011年11月12日(土)～2011年11月18日(金)
開通後：2012年11月 3日(土)～2012年11月 9日(金)



2. 企業の満足度が向上

製造品等の運搬系企業は約6割が新東名を利用、営業系企業は、約8割が利用し、東名との使い分けがどちらの業態ともに約5割以上となっている。

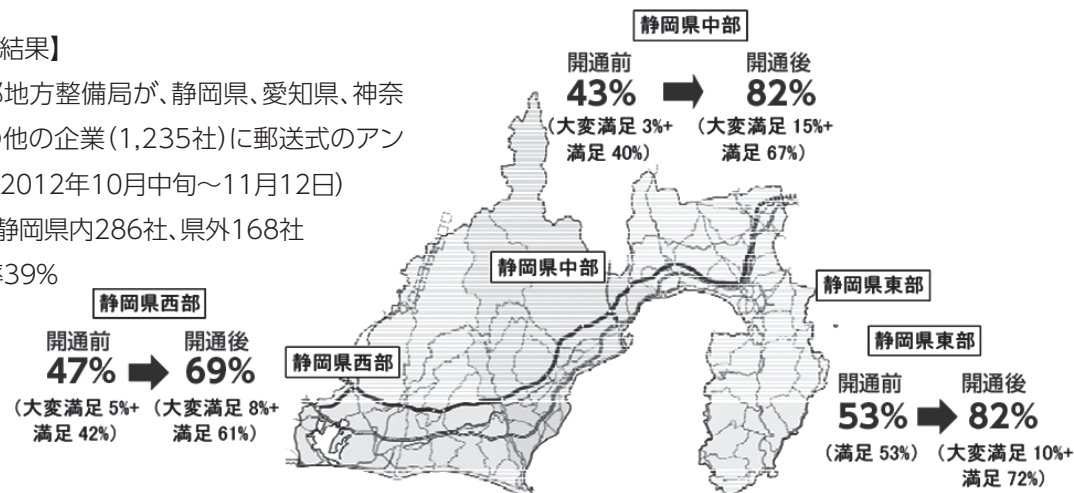
また、静岡県内地域別満足度も大きく向上した。

【企業アンケートの結果】

国土交通省中部地方整備局が、静岡県、愛知県、神奈川県、東京都、その他の企業(1,235社)に郵送式のアンケート調査を実施(2012年10月中旬～11月12日)

回収は、480社(静岡県内286社、県外168社

不明26社)、回収率39%

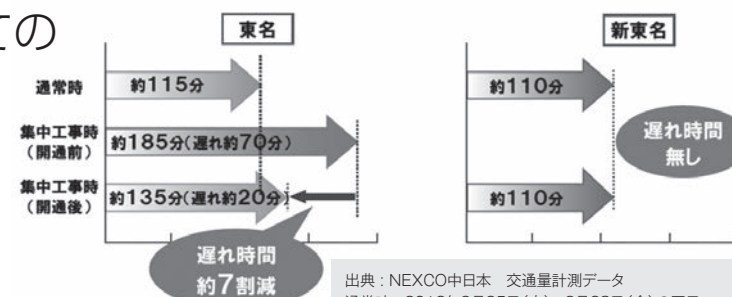


Q2 新東名が整備されての 効果は？

1. 所要時間の安定化

東名集中工事期間中の御殿場JCT～三ヶ日JCT間の渋滞量は、開通前と比較し約9割減少した。

また、平均所要時間は、開通前約70分の遅れが発生していたが、開通後は、約20分の遅れにとどまり、平均所要時間の遅れは、約7割減少した。一方、新東名の平均所要時間に遅れは発生しなかった。



出典：NEXCO中日本 交通量計測データ
通常時：2012年9月25日(火)～9月28日(金)の平日
開通前：2011年10月11日(火)～10月21日(金)の平日
開通後：2012年10月9日(火)～10月19日(金)の平日
通常時の平均所要時間は10間を80km/hで走行した場合の所要時間

2. 燃費向上による費用低減

新東名は東名に比べ走行性や安全性を重視した道路線形で、東京～名古屋間の利用で、約7%燃費が向上する結果となった。



(一社)全国物流ネットワーク協会調査
・調査機関：2012年3月及び4月
・調査方法：数社のサンプリング
・対象車両：東京IC～名古屋IC間の直行便トラック

3. 休憩施設における防災救急機能の発揮

新東名の休憩施設には、防災救急機能の一つとしてヘリポートが整備され、ドクターヘリが出勤し急病人に迅速な医療処置を実施している。また、大規模災害に備え、地域と連携しヘリポートを活用した防災訓練を実施している。

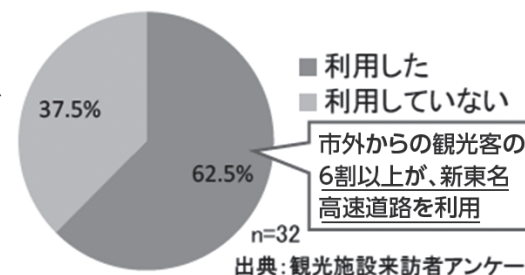
静岡県警航空隊中型ヘリ
(駿河湾沼津SA)による訓練の様子



4. 観光振興に寄与

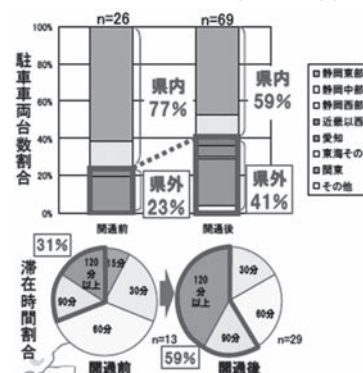
新東名沿線の観光施設(浜津市・富士宮市)の駐車場利用は県外車両が増加している。さらに観光施設利用者へのアンケート結果、新東名開通前と比べ滞在時間が長い傾向となっている。

また、主な観光施設への静岡市外からの観光客の6割以上が新東名を利用している。



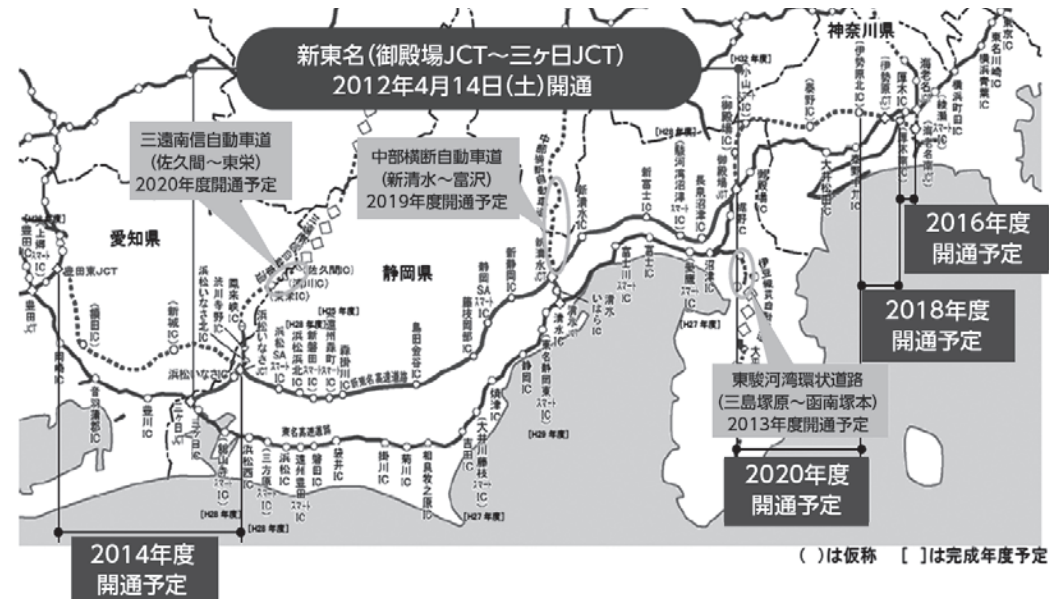
■ 利用した
■ 利用していない
市外からの観光客の6割以上が、新東名高速道路を利用
出典：観光施設来訪者アンケート

富士せせらぎ広場(富士宮市)



出典：国土交通省 中部地方整備局

Q3 今後の整備計画は？



()は仮称 []は完成年度予定

働くクルマたち

新シリーズ

第3回：タンクトレーラ

タンクトレーラとは、流動物を運ぶための車輛で、石油や液化ガス、樹脂原料やバラセメントなどさまざまな積荷があります。積荷に応じた排出装置が装備されており、液体など自然降下で排出するものや、粉粒体など外部からのエア供給を受けて圧送・排出する仕組みなどがあります。

また、タンク体の材質も積荷によって設計されており、衛生上の観点から食品を運ぶ場合はステンレスを使うことが多く、より多くの荷物を運ぶためにアルミなどが使われることもあります。危険物を運ぶ場合は、車両に関する法律以外に、消防法の規制も適用されます。

社会に欠かすことのできない車体工業会会員が製造している多種多様な「働くクルマたち」について毎回、車種を選定してその特徴等、日頃は目にしないところを含めて紹介していく。

1. 色々なタンクトレーラ

① 石油タンクトレーラ

資料提供：昭和飛行機工業(株)



製作にあたって

従来型の20キロリットルトレーラとほぼ同等な連結全長で、かつ軽油24キロリットル満載を可能とした車両です。軽量化、リフトアックスル採用による燃費の向上、高速料金の低減、タイヤの磨耗などの経済性向上やEBS、横転制御装置採用による安全性向上を特徴としています。

【主要仕様等】

車両寸法	全長12,290mm×全幅2,490mm×全高3,100mm
最大積載量	21,520kg（タンク容量17,500ℓ）

② ステンレス製タンクセミトレーラ

資料提供：東邦車輛(株)

製作にあたって

化成品（危険物）運搬用のステンレス製タンクセミトレーラです。この他、保温・加温仕様や非危険物仕様など、積載物の性状に最適な化成品（ケミカル）タンクローリやタンクセミトレーラを製作しています。

3軸の基準緩和タンクセミトレーラのほかにも、GVW 20t～28t基準内車両のセミトレーラ（1軸車・2軸車）や、エアサス・リフト装置付き仕様など、幅広く対応しています。



【主要仕様等】

車両寸法	全長11,795mm×全幅2,490×全高3,220
最大積載量	21,520kg（タンク容量17,500ℓ）

③ 飼料セミトレーラ

資料提供：東邦車輛(株)

製作にあたって

家畜の飼料をダンパーにより高所のサイロに運ぶための車両です。飼料の排出の向上はもちろん、優れた機能性を誇る飼料輸送車です。

操作レバー、ハンドル類は車両右後部に集中させて操作性の向上を図り、大型マンホールで積込作業も簡単、タンクには丸みと滑らかさをもたせ容積を拡大しています。トレーラは容積40m³から41.7m³、積載量は25,400kgまで可能です。

今後の大量輸送及びCO₂削減に貢献できる車両となっています。



【主要仕様等】

車両寸法	全長12,910mm×全幅2,490mm×全高3,790mm
最大積載量	25,400kg (41.7m ³)

④ 粉粒体運搬用タンクトレーラ

資料提供：日本トレクス(株)



【主要仕様等】

車両寸法	全長9,520mm×全幅2,490mm×全高3,570mm
最大積載量	5,100kg (25.1m ³)

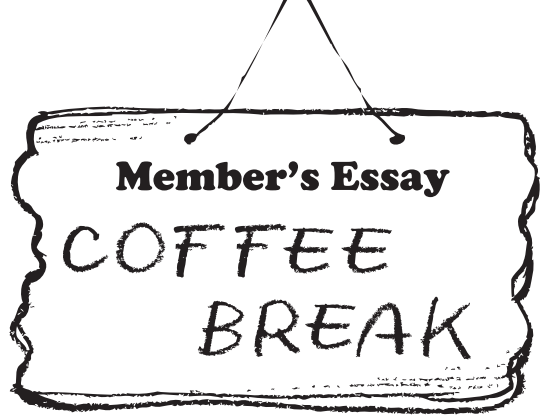
製作にあたって

粉粒体（主にバラセメント）運搬用に開発された3軸25m³積載を可能にした車両です。基準内シングルトラクタとの連結が可能で、小回りが利くよう連結全長を短く設計しています。排出時間を配慮した、独特のタンク形状が特徴です。エアサス・リフトアックスル機構装着で高速料金の低減・タイヤ磨耗などのランニンランニングコスト低減にも配慮しています。

2. 生産台数実績

タンクトレーラ生産台数 (台)

年度		2007	2008	2009	2010	2011	2012
石油類		168	155	72	115	233	248
粉粒体	セメント	152	46	43	50	60	86
	飼料	52	20	34	43	30	35
高圧ガス		22	35	26	29	44	49
ミルク・食品		3	2	0	0	1	0
その他		3	29	89	101	133	202



ライブが大好き

小平産業㈱ 松本 千明

学生時代から出かけることが大好きで趣味は旅行、でも今のマイブームはライブ観賞、音楽鑑賞です。年間多いときは数十回行くこともあり、好きな音楽を生で聴いて、友人と騒いで、とてもストレス発散になります。

CDで聴いたりDVDで観るのも好きですが、実際に生で聴く歌やバンド演奏は迫力も違いとても感動します。開演時間に客席の照明が落ち会場が真っ暗になった瞬間のドキドキ感は何度行っても興奮し、そして数時間のライブはあっという間で終わり、その頃には少し淋しい気持ちにもなります。



左から2番目が筆者

夏の野外フェスなどは、朝から晩まで汗だくになりながらいろんな音楽を聴けて屋内とは違い、解放感があり、最後には花火が上がったり毎回いい思い出になります。また、屋内でも小さなライブハウスで行われるアットホームな感じのライブも好きですし、大きな会場で行われる会場が一つになって一体感のあるライブも好きです。

w-ind'sのファンミーティングでは、大好きな慶太君とのツーショットも実現出来ました。

そしてライブに合わせていろいろな場所で観光も楽しんでいます。時には海外へ行くこともありました。今まで行ったことのない土地へ行き、温泉に入ったり、観光して美味しいものを食べたりします。友人と何日も前からガイドブックなどで調べますが、遠足へ行く小学生の様なワクワクした気分になります。行きたいところがありすぎて全部回れなかった失敗もありましたが、交友関係も広がりました。共通の趣味で年齢や住んでる場所も違うのにたくさんの友達ができました。これからもいろんな音楽や人に出会いいろんなところに行けたらいいなと思います。



w-ind'sの慶太君と筆者

I LOVE カタナ

富士車輛㈱ 山本 博之

私の趣味は、バイク。「乗る」「いじる」「観る」いずれも楽しんでいます。そんな趣味の相棒は、「カタナ」。1983年登録の年代物。出会いは、「バリ伝」でした。アラフォーの方はご存知かと思いますが、主人公のライバル「秀吉」が乗っていたのが「カタナ」でした。日本刀をイメージしたデザインに惹かれましたが、大型しかなかった「カタナ」は



往年のワークスライダーと撮影



愛車の「カタナ」

高嶺の花で、憧れでした。学生の頃は限定解除ができず、社会人になってから大型免許を取得し即購入。以来、手元に来てから19年になります。

年に一度は大学時代の友人とツーリングに出かけています。以前は九州が中心でしたが、いい年齢になり大勢で集まることができなくなってきました。遠出していたときは、何故か砂金堀にはまっていました。鉱山跡の観光と土産も目当てに、佐渡・土肥・生野・鯛生には行きましたが、まだ菱刈には行ったことがありません。一攫千金を狙って、一度は行きたいです。最近では、もっぱら、数人でGWに鈴鹿サーキット集合・走行・解散となっています。

乗り出した頃は、10,000マイル(逆輸入車です)程度だった走行距離が、今では40,000マイルに届くほど。あちこちガタがきだしています(車両も人間も)。足廻り・排気系と一通りの変更は行っていますが、寄る年波には勝てずキャブの不調やオイル上がりが出だしています。そろそろ全体的なオーバーホールが必要な…

最後の「観る」は、「観戦」。サーキットの、各メーカーの車両とエギゾーストノートには痺れさせられます。本当に華やかな気分になる。お気に入り、やっぱり「スズキ」です。けして、キャンギャルの綺麗なお姉さん目当てではありませんから(汗)。



観戦先でのワンショット

ラグビーとの出会い

吉村製材㈱ 山田 徹

子供の頃、野球少年で毎日夜遅くまで厳しい練習をしていました。辛いことや苦しいこともたくさんありましたが、野球を通して得たものや、成長したことも多くスポーツの素晴らしさを実感していました。息子にも何かスポーツに打ち込んで欲しいと思っていましたが、小さい頃から飽き症で何を習わせても長続きはしませんでした。

そんな息子が中学生になり、ラグビー部に入部しまし



息子のラグビーの試合を観戦する筆者

た。ラグビー部が中学にあることも驚きですし、そもそもラグビー自体なじみのあるスポーツではなく、私の世代でラグビーと言えば、「スクールウォーズ」で非常に過酷なイメージだったので、子供がラグビー部に入部したということは驚きでした。どんな様子なのかと先輩達の試合を観に行ってみると、中学生とは思えない程の迫力でぶつかり合い、倒されても、踏まれても頑張ろうとするそんな熱い姿は感動的でした。ただ、そんな思いとは別に、息子に出来るのか、また辞めてしまうのではないかと不安になりました。しかし、そんな不安をよそに、息子はラグビーに夢中になりました。

辛い練習を休むこともなく、どこかケガをするとすぐに泣いていた息子が、今では主将になり真剣に取り組んでいる姿を見て、本当に成長したと嬉しく思います。

そんな息子の一生懸命頑張っている姿を見るのが私の今の一番の楽しみです。そして、今ではラグビーというスポーツが本当に好きになり、ラグビーの試合を観戦するのが何よりの趣味になりました。自分より大きな選手にもぶつかり、倒されても諦めない姿を見ると、他のスポーツでは感じる事ができなかった熱い気持ちになり、応援にも力が入ります。

これからも、そんなラグビーを通してたくさんのことを学び、成長していく息子を応援し続けたいと思います。



(株)永光自動車工業
フロント
よしの あや
吉野 綾さん



我が社の

元気人

(株)相模ボデー
製造部
かわい とくま
河合 篤磨さん



お客様の
「ありがとう」の言葉
が喜びです。

街中で、自分が仕上
げたボデーを見ると
うれしく思います。

Q1 どんなお仕事ですか。

架装作業をはじめ、整備から钣金修理まで幅広い作業の最初の受付をする部署です。当社のあらゆる作業の窓口となる部署ですから、電話でも笑顔を絶やさないように対応しております。受付窓口業務ではありますが、さまざまな事柄を知っていなくてはなりませんので勉強の日々です。

Q2 仕事で楽しいときは

お客様に「ありがとう」と言っていたただけのときが一番嬉しいです。お客様に喜んでいただくことが、私の仕事の喜びに感じております。

Q3 仕事でつらいこと

ある程度の幅広い知識がどうしても必要となりますので、クルマのこと、作業のことを覚えていくのが本当に大変です。未だにカタカナ言葉と戦っています。(笑)

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

あるお客様に「女の子なのに、随分と車に詳しいんだね。」と言っていたただけのことです。もしかしたら、御世辞だったのかも知れませんが。(笑)

Q5 御社のPRをしてください！

当社は、軽～大型重機までをカバーする指定整備工場(民間車検場)ですが、最近は架装作業や特装作業にも力を入れています。ベース車両の選定・販売から架装製作、アフターフォローまですべてのサービスを一貫してワン・ストップでご提供しています。いつもがんばっていますのでぜひ遊びにいらしてください。

Q1 どんなお仕事ですか。

製造部で新車の検収や検査立会い、ショートパーツの発注等の業務をしています。まだ入社して半年なのでいろいろな仕事を先輩に教えてもらいながら勉強中です。ようやく最近は職場にも慣れてきました。

Q2 仕事で楽しいときは

自分が担当する工程を経て出来上がったボデーが街中で走っているのを見るとうれしく思います。また自分の仕事に社会に役立っていると思うと責任も感じるようになりました。

Q3 仕事でつらいこと

研修期間中に現場作業をしていて、力仕事のときに体がついていかず筋肉痛になり、慣れるまでつらかったです。今年の夏は猛暑だったこともあり夏バテをしてしまいました。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

お客様が来社して、自分の携わったボデーを見て喜んでいただくことが印象に残りました。

Q5 御社のPRをしてください！

平ボデーを中心にいろいろなボデーを架装しています。お客様一台一台の仕様にきめ細かく対応して満足いただけるボデーを提供していきます。

DATA FLASH

2013年4月～9月 会員生産状況概要

① 合計

- ・4月～9月累計台数は前年比4.6%減、'11年比較では29%増
- ・軽の生産移管や補助金の終了等による影響で前年比で減少

② 非量産車合計

- ・4月～9月累計台数は前年比8.2%増、'11年比較では48%増
- ・昨年度末の3か月間は前年超えであり、一時前年を下回っていたが直近の3か月は前年超え
- ・ダンプ車、ミキサー車等、一部の車種は復興関連需要で前年超えが継続

③ 特装車

- ・4月～9月前半はエコカー補助金終了の影響で前年割れ、その後レンタル向け車両の増加と各社増産体制が整いつつあることから7月以降は大幅に前年超え。増加車種はダンプ/タンクローリ/ミキサー

④ 特種車

- ・4月～9月累計台数は、前年比30%増で、補正予算の関係により警察用車両が増加したことによる。
- ・直近は、量産系の警察車と車いす移動車が増加、また非量産系の救急車が持ち直したが、医療防疫車等トラックベースのものはシャシ入庫が遅れており、生産が低調

⑤ 平ボデートラック(除くシャシメーカー標準車)

- ・4月～9月累計台数は、前年比4.2%増。震災復興で東北/関東地区中心に大中型平ボデー需要が継続中
- ・クレーン付平ボデー・建機運搬車など好調だが、東北/関東地区に需要が偏っている。

⑥ バン

- ・4月～9月累計台数は、前年比4.2%増。4～6月は前年度のエコカー補助金終了の影響で落込んだが、コンビニ、宅配の好調さを受けて冷凍・保冷車を中心に盛り返してきている。
- ・車種別ではウイング車が前年度末のトラックメーカートップシェア争いの反動で減少

⑦ トレーラ

- ・4月～9月累計台数は、前年比2.0%増の3,065台
- ・5月に平床タイプが4月に引き続き減少し、同56%と落ち込んだことで大幅に減少したが、その後回復

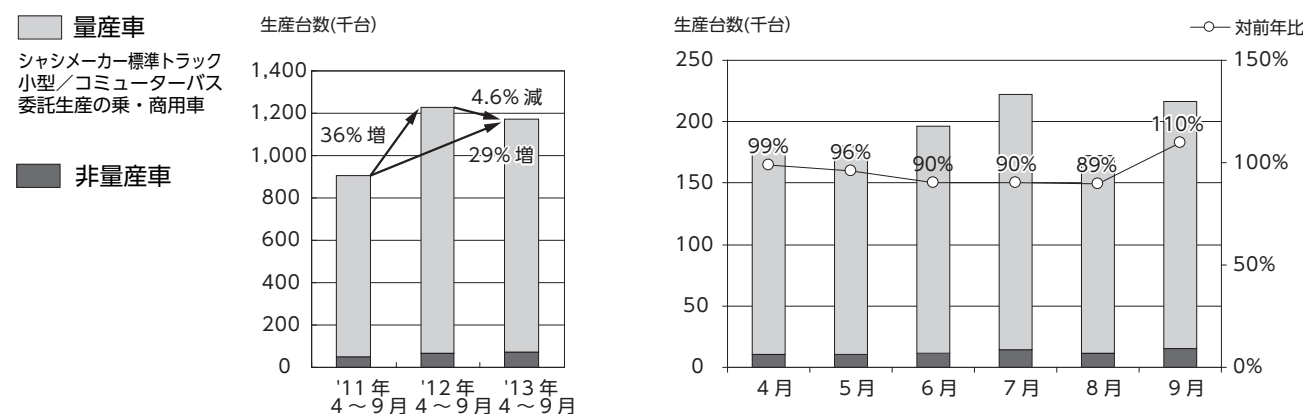
⑧ 大中型バス

- ・4月～9月累計台数は、前年比で微増の1.9%増。東海・関東を中心に路線車が増えたことによる。
- ・観光需要が回復基調であることと消費増税対応の駆け込み需要で、生産が戻りつつある。

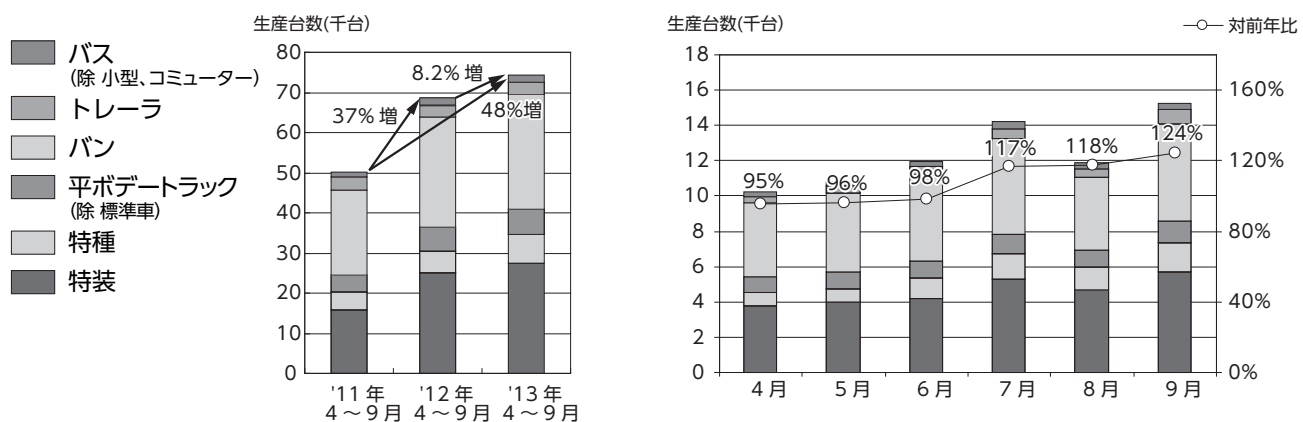
⑨ 小型車(小型部会員の委託生産の乗・商用車)

- ・4月～9月累計で前年比5.1%減で、軽自動車の生産移管や補助金の終了等により前年割れとなった。
- ・直近の9月は、上期で初めての前年同月比9.4%増と回復

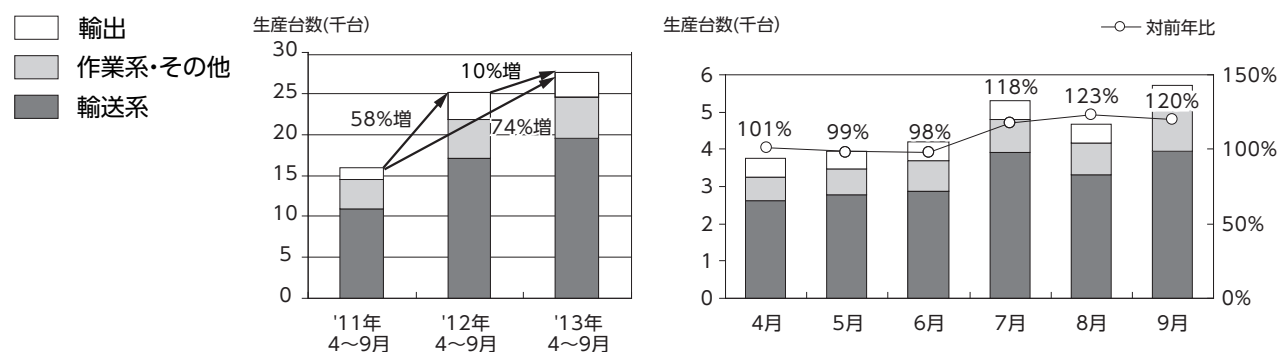
合計(非量産車+量産車)



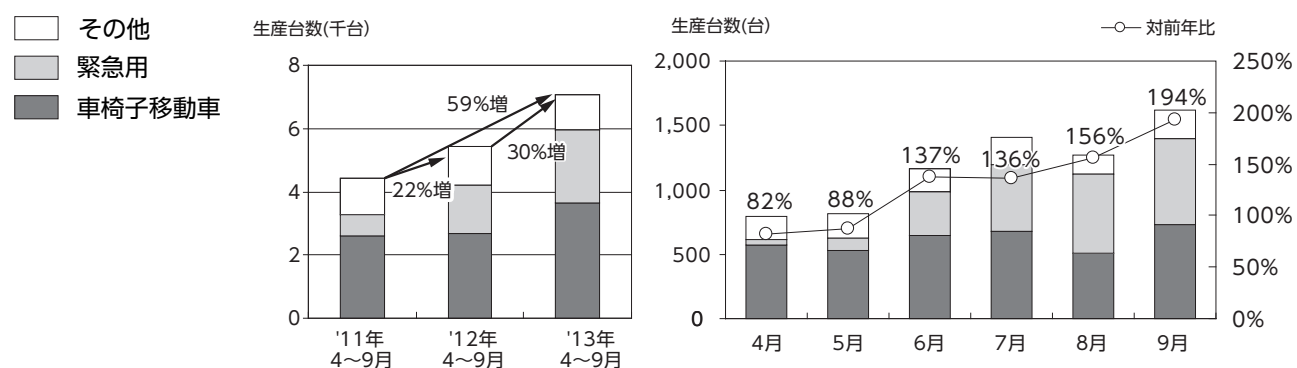
非量産車合計



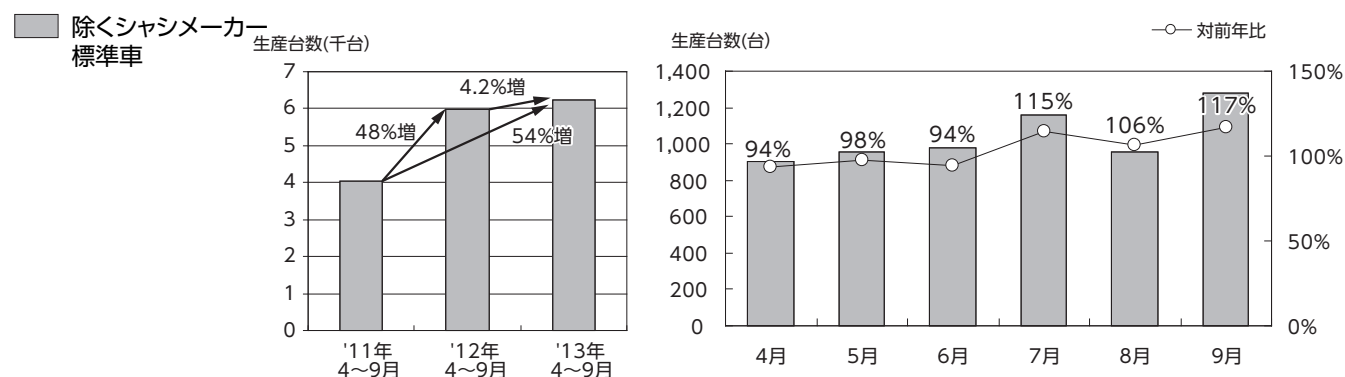
特装車



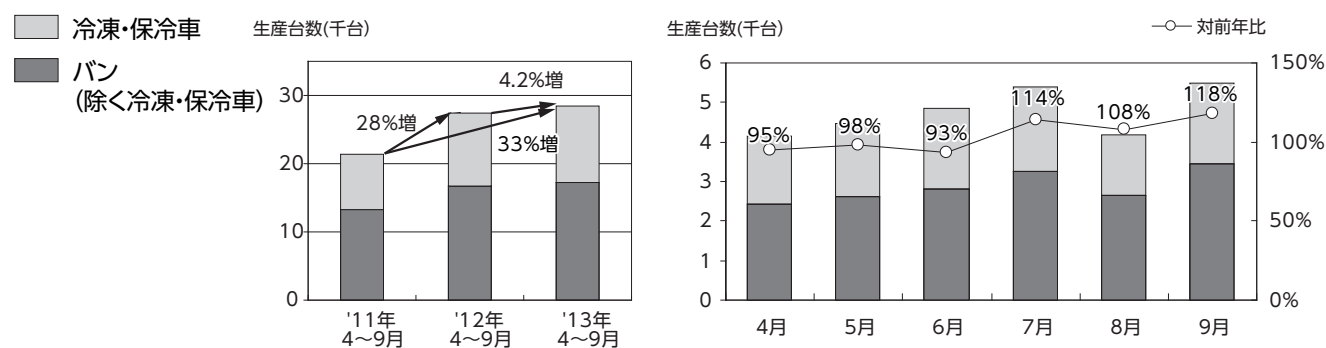
特種車



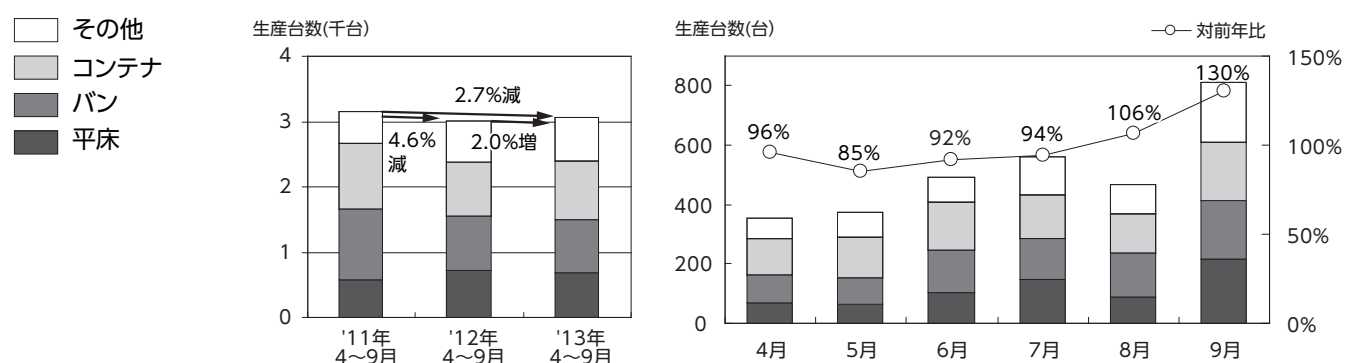
平ボデートラック



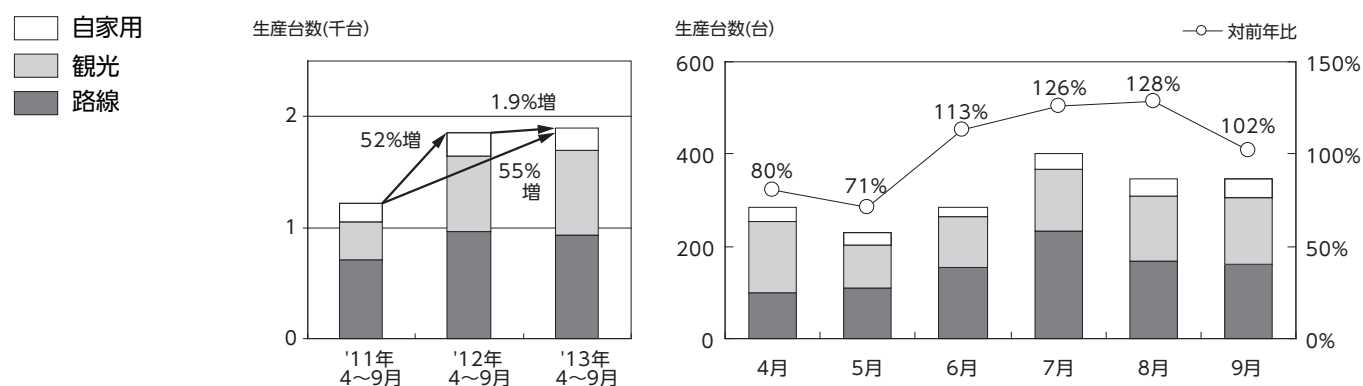
バン



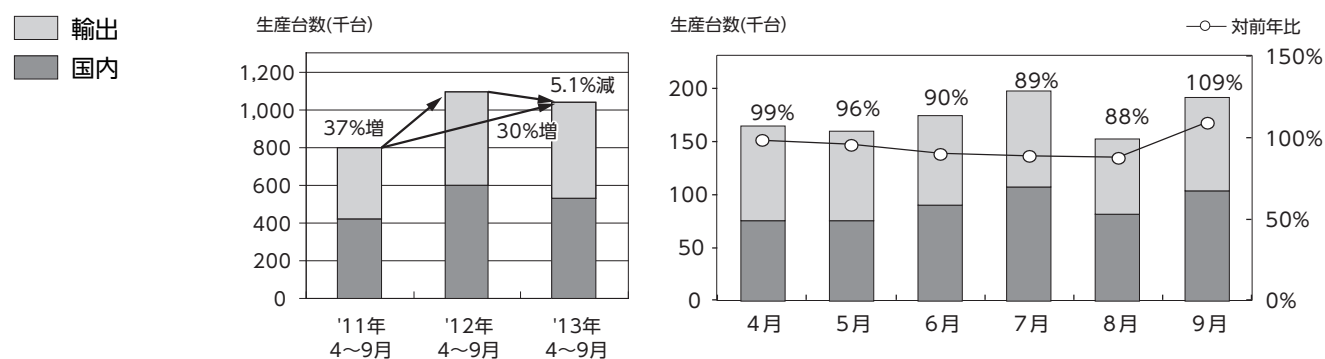
トレーラ



大中型バス



小型車(委託生産の乗・商用車)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動にともなう業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>



表紙写真について 豎型高速破砕機搭載セミトレーラ



極東開発工業(株)

本車両は日本初の「豎型高速破砕機搭載トレーラ」です。固定施設並みの破砕性能を有しながら車両総重量28t未満に収めており、処理物の破砕が求められる場所・時間に出向き処理する事が可能です。更に発電機を搭載しており、現場のインフラ状況に関わらず対応することができます。

編集後記

外の景色があっという間に変わり北では落ち葉から雪景色へと変化してきている。猛暑と言われた夏から秋への移ろいを感じる間もなく「冬号」の製作に取りかかった。

自動車業界は「東京モーターショー2013」で日本のものづくりにおける技術、技能の高さとともに「おもてなし」の心をグローバルに発信し、自動車の魅力をPRした。会場である東京ビッグサイトだけではなく、お台場エリア全体で東京モーターショーに関連するイベントを展開し、若者に二輪車を含めた自動車の楽しさを伝えてきた。これら関係する皆さんの取組みの結果、前回は6万人近く上回る902,800名の来場者(主催者発表)につながったのではないかな。また、展示車両も安全、安心、環境という基本的なことに加わえ、運転することが楽しく、そして近未来のモビリティのあり方を示したものが多かった。社会環境の変化がモビリティの方向性に表れていると感じた。

その中で当会は特集記事でも紹介させていただいたが、「『働く くるま』大集合」として会員11社が15台の車両を合同展示し、働く部分については実際に可動させるなどして働く状況を紹介し、PRした。私も会場では来場者から質問を受けた。展示車両に関しては各社にお任せしているが、当会に関する内容は事務局として説明させていただいた。当会

(吉田)

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

トヨタ車体株式会社表2
 住友スリーエム株式会社表3
 交通エコロジー・モビリティ財団表4

車体NEWS

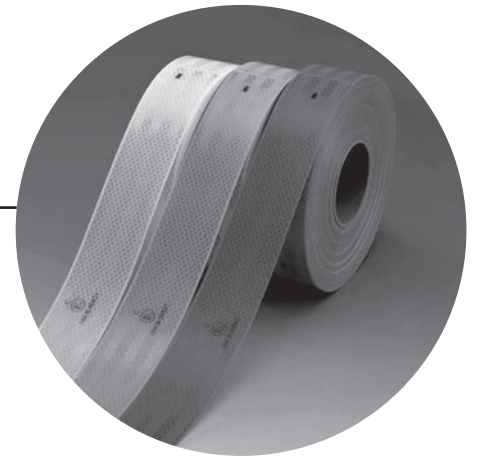
WINTER 2013 冬

2013年12月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会
 〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
 TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684
 発行人 吉田 量年

美しさと安全性の両立

Beauty & Safety スリーエムからの提案です。



スリーエムダイヤモンドグレード™
 コンスピキュエティ反射シート

スリーエム反射シート680Eシリーズ

スコッチカル™ フィルム

コントロールタック™ プラスフィルム

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。

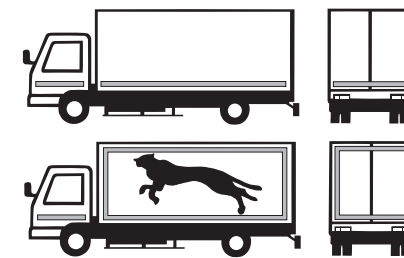
わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)＜スリーエム＞ダイヤモンドグレードコンスピキュエティ反射シートと＜スリーエム＞反射シート680Eシリーズを提供しています。また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、＜スコッチカル＞フィルム、＜コントロールタック＞プラスフィルムおよび＜スコッチプリント＞グラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。

スリーエム™ ダイヤモンドグレード コンスピキュエティ反射シート

入射光を光源方向にまっすぐ戻す、再帰反射性反射効果を備えたプリズムレンズ型反射シートです。ヘッドライトの光などで明るく輝き、自車の存在を相手に強くアピールします。

■おもな特徴

1. 従来品に比べ、反射効果が大幅にアップしています。
2. 広角性にすぐれ、カーブ時の見やすさも十分に確保できます。
3. 取り扱いが簡単です。裏面の透明フィルムをはがすだけで、多くの車体に直接貼ることができます。
4. 耐久期間は約7年です。(当社ガイドライン通りに貼付された場合)。



※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。

事故減少に対するコンスピキュエティ反射シートの有効性に関わる研究報告

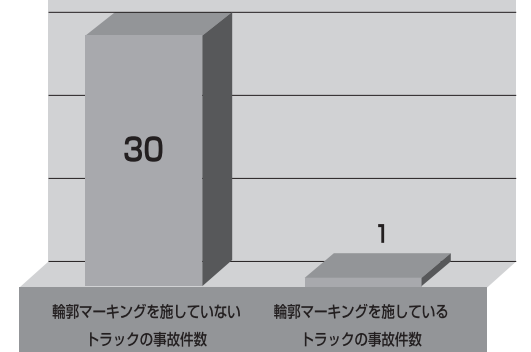
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が「みられやすさ」(コンスピキュエティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



住友スリーエム株式会社 交通安全システム事業部

本社 158-8583 東京都世田谷区玉川台 2-33-1
 電話 (03) 3709-8357
 URL : http://www.mmm.co.jp

3M